

北海道立農業試験場資料 第3号

農作物優良品種の解説

昭和 35 年 3 月

北海道立農業試験場

は し が き

北海道農業の安定と農作物の増産に優良品種の普及がもたらす影響は極めて大きいことはいうまでもない。

近年、育種技術の進歩により各作物の優良品種の作出が著しく多く、これらの特性についての照会があとを絶たない現状である。

当試験場では昭和2年（北海道農事試験場）に引続き昭和27年に優良品種の解説を發表したが、今回、昭和28年度以降に決定をみた優良品種を一括解説するから、前回発行とあわせ品種選定の参考に供されれば幸いである。

昭和 35 年 3 月

北海道立農業試験場長

秋 濱 浩 三

農作物優良品種の解説

この解説は、昭和27年11月発行の同誌に登載以降優良品種に決定したものについて、品種の来歴、育成経過ならびに特性概要などについて、北海道農業試験機関における試験調査の成績にもとづき、技師嶋山御二に編さんさせたものである。

試験成績を引用した農業試験機関名は次のとおりである。

北海道立農業試験場	種芸部
同	渡島支場
同	上川支場
同	十勝支場
同	北見支場
同	根室支場
同	天北支場
同	宗谷支場
同	空知支場
農林省北海道農業試験場	作物部
同	作物部作物第4研究室(島松)
同	作物部てん菜研究室
同	特用作物第3研究室(遠軽)
同	畜産部
同	農芸化学部泥炭地研究室(美唄)

農作物優良品種の解説

目 次

I	水 稻	1
	梗 種	
1	トヨヒカリ (上育 159号)	1
2	ワセニシキ (北海 147号)	2
3	テルニシキ (上育 157号)	3
4	ホ ク ト (北海 127号)	4
5	紅 光 (渡育 134号)	5
6	白 光 (渡育 132号)	6
7	シ ソ セ ツ (北海 130号B)	7
8	キタミノリ (上育 183号)	8
9	ナガミノリ (上育 201号)	10
10	フ ク ユ キ (上育 202号)	11
11	ヤチミノリ (水稻農林 105号)	12
12	ミ マ サ リ (上育 214号)	14
13	イワコガネ (水稻農林 119号)	15
	糯 種	
14	オフクモチ (渡育 139号)	16
15	双 豊 糯	17
II	大麥および裸麥	19
	春 播 大 麥	
1	六 角 大 関 (札育 1号)	19
2	原 田 大 麥	20
3	アカソムギ (春播皮麥農林 9号)	21
4	マシユウムギ (春播皮麥農林 15号)	22
5	春 星	24
	裸 麥	
6	根 室 裸 (根育 6号)	24

III 小 麥25

春 播 小 麥

- 1 キタミハルコムギ (北育3号)25

秋 播 小 麥

- 2 ホクエイ (本系331号)26
 3 サビマサリ (本系300号)27
 4 大 中 山28
 5 改良伊達早生29

IV 燕 麥30

- 1 黒 災 1 号 (純4—22)30
 2 ホ ナ ミ (春播燕麦農林2号)31

V 玉 蜀 黍32

硬 粒 種

- 1 玉蜀黍交4号 (月交193号)32

甘 味 種

- 2 タナバタワセ (札交5322)33
 3 ゴールデンクロス パンタム34
 4 イエロー スイート (札交5207)35

馬 齒 種

- 5 複 交 4 号 (W 275)36
 6 複 交 5 号 (W 355)37
 7 複 交 6 号 (札交2837)37
 8 複 交 7 号 (札交2720)38
 9 複 交 8 号 (札交2728)39
 10 U — 2840

VI 大 豆41

- 1 白 千 石 (十育63号)41
 2 鈴 成 (十育66号)42
 3 イ ス ズ (系83—B)43
 4 北 見 白 (系50—A)44
 5 カ リ カ チ (大豆農林17号)45

6	ホツカイハダカ (大豆農林14号)	46
7	テンボクワセ (天育 1号)	47
8	早 生 緑	48
9	坂 本 早 生	48
VII	小 豆	49
1	宝 小 豆	49
VIII	菜 豆	50
1	大 正 金 時	50
2	白 金 時	51
3	大 正 白 金 時	52
IX	豌 豆	53
1	改 良 青 手 無 (札幌青手無 1号—40)	53
X	馬 鈴 薯	54
1	チ ト セ (馬鈴薯農林 4号)	54
2	オ オ シ ロ (馬鈴薯農林 5号)	56
3	根 室 紅 (島系 187号)	57
4	ケ ネ ベ ッ ク (馬鈴薯導入 1号)	58
5	ヨ ウ ラ ク (馬鈴薯農林 8号)	59
6	ニ セ コ (馬鈴薯農林 9号)	60
7	リ シ リ (馬鈴薯農林10号)	62
XI	亜 麻	63
1	あ お や ぎ (本系 53号)	63
2	ウ イ ー ラ	64
3	ノ ー プ レ ス	66
XII	て ん 菜	67
1	導 入 2 号 (GW 359)	67
2	てん菜合成 1号 (SY-B)	68
3	てん菜合成 2号 (SY-C)	69
XIII	薄 荷	70
1	万 葉 (薄荷農林 1号)	70

2	す ず か ぜ (薄荷農林2号)	71
XIV	スエーデンかぶ	72
1	ネムロルタバガ	72
2	マゼスチツク1号 (MA-1号)	73
XV	牧 草	74
	禾本科牧草	
	オーチャードグラス	
1	フ ロ ー ド	74
	荳科牧草	
	赤クロパー	
2	マンモスクロパー	75
3	サ イ ロ	76
	その他のクロパー	
4	ラデノクロパー	77
	ル ー サ ン	
5	グ リ ム	78
6	デュビユイ	78
XVI	そ 菜	79
	ほうれん草	
1	札幌大葉	79
	かぼちや	
2	琴 似	80
XVII	果 樹	81
	な し	
1	初 日	81
2	甘 玉	82
3	北 洋	83

附

優良品種 (昭和27年度以前決定) および元優良品種

I 水 稻

梗 稻

(1) トヨヒカリ (上育 159号)

来歴ならびに育成経過

この品種は北海道立農業試験場上川支場にて昭和19年に「早生愛国」を母とし、「水稻農林15号」を父として人工交配を行ない、それ以来選抜固定をつづけて育成したもので、昭和25年に「2508」の仮名称をつけ、昭和26年に「上育 159号」の系統名をつけて生産力検定試験および特性検定試験を行なうと同時に、道内各地にも種子を配付して地方適否を確かめ、昭和28年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期は「栄光」と大差ないが熟期は「中生栄光」と同程度のものであつて、晩生種の早に属する。
2. 草型は穂数型で、中稈、穂の長さは中くらいで粒着はやや密、無芒であり、稈先色は暗紅色をていする。
3. 稻熱病耐病性は「富国」、「栄光」、「中生栄光」よりもはるかに強く、やや強に属する。
4. 冷水抵抗性は「栄光」、「富国」、「中生栄光」よりややおとり、やや弱に属する。
5. 耐倒伏性は「栄光」よりややおとり「富国」、「中生栄光」と同程度である。
6. 収量は「栄光」、「富国」、「中生栄光」よりもはるかに多収である。
7. 品質は中型中粒で、品質は上の下で「栄光」、「中生栄光」と同程度であり、「富国」よりもまさる。

奨 励 箇 目

以上の特性からみて中、晩生種地帯における「栄光」、「中生栄光」と比較して多収性を示し、耐病性も相当強いので、中、晩生種地帯の主要品種とし

て好適である。

試 験 場 名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 期 に お け る			ha当り収量		玄 米		初摺 歩合	試 験 年 次
					草丈	穂長	1株 本数	玄米重	稈重	1立 重	1千粒 重		
上川支場	直播	月日 8. 6	月日 9.17	—	83.2	13.4	44	4,865	—	832.20.9		—	昭和年 27
	冷床	8. 4	9.14	—	84.9	15.3	20	4,434	—	—		—	25~27
空知支場	冷床	8.14	9.30	154	86.8	16.4	23	3,848	5,061	812	21.8	83.3	30~33
国立農試 作物部 同 研 究 室	冷床	8.15	10. 5	160	80.5	14.9	25	4,181	6,686	815	20.6	83.6	29~33
	冷床	8.10	9.25	126	82.3	15.6	23	3,885	6,155	789	20.6	83.0	27~33

(2) ワセニシキ (北海 147号)

来歴ならびに育成経過

この品種は北海道立農業試験場上川支場で昭和19年に「紅綿」を母として「水稻農林20号」を父として人工交配を行ない、それ以来選抜固定をつづけ育成したもので、昭和25年に「2514」の仮名称をつけ、昭和26年に「水稻北海 147号」の系統名をつけて生産力検定試験および特性検定試験を行なうと同時に、道内各地にも種子を配付して地方適否を確かめたものである。昭和28年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 成熟期は「水稻農林20号」と同程度であつて、早生種に属する。
2. 草型は穂数型で、短稈、穂の長さもやや短かく、粒着密で稈先に暗紅色の着色がある。
3. 稻熱病耐病性は「水稻農林20号」より強く、「水稻農林28号」よりも強い傾向を示すが、「水稻農林34号」よりややおとる。
4. 冷水抵抗性は「水稻農林20号」と大体同程度である。
5. 耐倒伏性は「水稻農林20号」と大差なく、「水稻農林28号」より強い。
6. 収量は直播栽培、冷床栽培ともに「水稻農林20号」「水稻農林28号」よりも多く、とくに多肥栽培の場合に幾分その傾向が強い。
7. 玄米は中形中粒で品質は上の下で、「水稻農林20号」「水稻農林28号」

と大差がない。

奨励範囲

従来の早生種に比較してこの「ワセニシキ」は収量多くまさっている。特に中生種地帯において、早生種を配合する場合の早生品種として用いるのに適する。耐冷性について「水稻農林20号」程度であることは栽培上特段の注意を必要とする。

試験場名	苗代 模式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 に お け る			ha当り収量		玄 米		歩合	試験 年次
					草丈 cm	穂長 cm	1株 茎数	玄米重 kg	稈稈重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
上川支場	直播	7.30	9.7	—	71.4	12.9	40	3,938	—	823	19.5	—	昭和25~27
	冷床	7.27	9.10	—	83.0	16.0	22	4,519	—			—	25~27
十勝支場	直播	8.18	9.23	—	74.7	12.1	27	1,707	5,417	777	17.9	79.6	28~31
	冷床	8.17	9.14	—	89.6	15.3	19	2,175	4,929	757	17.4	79.4	28~30
天北支場	冷床	8.7	9.27	151	73.5	15.6	19	3,841	3,807	809	20.8	81.7	28~30 32
国立農試 作物部 共同 英明研究室	冷床	8.6	9.22	148	77.9	15.6	26	3,805	6,204	814	20.6	84.5	29~33
	冷床	8.2	9.22	114	75.5	15.7	22	3,495	4,427	793	21.5	79.9	27,29, 30

(3) テルニシキ (上育 157号)

来歴ならびに育成経過

この品種は北海道立農業試験場上川支場にて昭和19年に「紅綿」を母とし「水稻農林20号」を父として人工交配を行ない、それ以来選抜固定をつづけ育成したもので、昭和24年に「2428」の仮名称をつけ、昭和26年に「上育157号」の系統名をつけて生産力検定試験および特性検定試験を行なうと同時に道内各地にも種子を配付して地方適否を確かめたものである。昭和28年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 成熟期は「栄光」より幾分おくれ気味であるが、中生種に属する。
2. 草型は穂数型で、やや短稈、穂の長さもやや短かく粒着密で、稈先に暗紅色の着色がある。

3. 稻熱病耐病性は「栄光」よりもやや強く「富国」よりはるかに強い。
4. 冷水抵抗性は「栄光」よりやや劣るが「富国」と同程度である。
5. 倒伏性は強の部に属し「栄光」よりも強く、「富国」、「中生栄光」よりもはるかに強い。
6. 収量は直播栽培、冷床栽培ともに「栄光」よりまさり、「富国」よりはるかに多収である。
7. 玄米は中形、中粒で「栄光」と大差なく上の下に属する。

奨励上の注意

以上の特性から本種は中生種の主要品種として栽培に好適である。ただし耐冷性は決して強いものでないから栽培上この点に充分注意する必要がある。

試験場名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 期 に お け る			ha当り収量		玄 米		刈摺 歩合	試験 年次
					草丈	穂長	1株 米数	玄米重	籾重	1立 重	千粒 重		
上川支場	直播	月日 8. 5	月日 9.18	日	cm 77.4	cm 13.6	本 43	kg 4,853	kg	g —	g —	% —	昭和年 27
	冷床	8. 4	9.11	—	79.0	15.0	22	4,275	—	823	20.1	—	25~27
天北支場	冷床	8.12	10. 2	155	78.6	15.8	17	3,597	3,273	820	19.4	80.7	26, 32
国立農試 作物部	冷床	8.13	10. 4	160	75.8	15.2	16	4,048	4,645	812	19.9	82.8	29~30
農研研究室	冷床	8.13	9.27	123	73.3	15.6	19	3,353	5,123	784	20.4	79.7	27~29

(4) ホ ク ト (北海 127号)

来歴ならびに育成経過

この品種は北海道立農業試験場上川支場にて昭和17年「功穂」を母とし、「共和」を父として人工交配を行ない、それ以来選抜固定を続け育成したもので、昭和21年に「2150」昭和22年に「2150 A」の仮名称をつけ、昭和24年に「北海 127号」の系統名をつけて生産力検定試験および特性検定試験を行なうと同時に、地方適否を確かめ、昭和28年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 成熟期は「水稻農林20号」よりややおそく、「水稻農林28号」程度であ

つて早生種に属する。

2. 草型は中間型であつて中稈，穂の長さは中位であり，粒着密，短芒である。
3. 稻熱病耐病性は「水稻農林20号」よりもはるかに強く，「水稻農林28号」よりも強く，大体「水稻農林34号」より幾分劣る傾向があるが，全体からみて耐病性は強の部に属する。
4. 冷水抵抗性は「水稻農林20号」，「水稻農林34号」，「水稻農林28号」よりも強く，冷水抵抗性に強い「シラユキ」と同じ程度の強さを示す。
5. 耐倒伏性は「水稻農林28号」よりもはるかに強く，「水稻農林20号」，「水稻農林34号」よりやや強い傾向を示す。
6. 収量は「水稻農林20号」，「水稻農林28号」よりやや多い傾向を示す。

奨励範囲

早生種地帯の安全確収の上からみて耐病性，耐冷性品種として栽培するに適する。

試験場名	苗代 様式	出穂期 月日	成熟期 月日	生育 期における			1ha当り収量		玄米		籾摺 歩合	試験 年次
				日数	草丈 cm	穂長 cm	1株 本数	玄米重 kg	籾重 kg	1立 重g	千粒 重g	
上川支場	直播	8. 3	9. 8	—	77.3	13.2	30	3,851	—	817	24.8	昭和24~27
	冷床	7.30	9. 9	—	85.5	14.8	19	4,123	—	—	—	27
十勝支場	直播	8.20	9.30	—	81.1	13.4	19	2,330	4,509	766	20.1	80.528~32
	冷床	8.18	9.27	—	87.7	14.4	14	2,460	4,196	772	21.2	81.428~32
天北支場	冷床	8.10	9.29	150	98.1	20.4	14	3,884	3,335	801	23.2	80.528~32

(5) 紅 光 (渡育 134号)

来歴および育成経過

この品種は北海道立農業試験場渡島支場において昭和17年「陸羽 132号」を母とし，「晩生栄光」を父として人工交配を行なつたもので，その後選抜固定をつづけ，昭和23年「渡系 135号—7」の系統名で生産力検定予備試験に編入，さらに昭和26年以降は「渡育 134号」の育成番号をつけて生産力検定試験および特性検定試験を行ない，昭和28年地方適否を確かめ昭和29年2

月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期は「巴まさり」と大差なく、成熟期は「巴まさり」より2日おくれ、晩熟種に属する。
2. 草丈は「南榮」程度であるが茎数はやや多目、無芒で稈先に暗紅色の着色がある。
3. 稻熱病耐病性は、穂首には「巴まさり」より強いが、節にはとくに強くはない。
4. 冷水抵抗性は弱くはないが、とくに強いというものではない。
5. 倒伏抵抗性は草丈の伸びる割に稈は丈夫で、「巴まさり」より強い。
6. 収量は「巴まさり」程度である。
7. 玄米の形はやや円味をおびており、光沢は極めてよく、かつ腹白がほとんどなく極めて品質がよい。

奨 励 範 囲

晩熟種に属する品種であるから、渡島、檜山の南部における良質米として現在の品種に配合して栽培したい。

試験場所	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 期 に お け る			ha当り収量		玄 米		籾摺 歩合	試験 年次
					草丈	穂長	株 茎数	玄米重	稈稈重	1立 重	千粒 重		
渡島支場	冷床	月日 8.10	月日 9.26	日 156	cm 89.9	cm 16.8	本 17	kg 4,182	kg 5,018	g 809	g 20.2	% 80.2	昭和年 26~33 欠29

(6) 白 光 (渡育 132号)

来歴および育成経過

この品種は「紅光」と兄弟系統で、両親も交配年次も全く同じである。昭和23年「渡系 135号—3」と名づけ、昭和26年以降は「渡育 132号」の育成番号を附し、特性検定試験をへて「紅光」とともに昭和29年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期および成熟期はともに「巴まさり」より3~4日おくれ晩熟種に

属する。

2. 草丈は「巴まさり」より幾分短かく、中位の長さの芒があり、穂にも穂先にも特別の着色はない。
3. 稲熱病耐病性は、穂首に対しては「巴まさり」より強いが、「南榮」よりおとる。
4. 冷水抵抗性は弱い方である。
5. 倒伏抵抗性は「巴まさり」より強い。
6. 収量は「巴まさり」程度である。
7. 「紅光」について品質のいいのが特質である。玄米の形状、大きさは中形中粒であるが、光沢はよく、腹白も少なく、「新榮」「南榮」よりはもちろん「巴まさり」よりも良質である。

奨励範囲

稲晩熟種に属する品種であるから、渡島、檜山の南部で「巴まさり」を栽培している地帯で、漸次「巴まさり」とおきかえて栽培したい。

試験場名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 日数	成熟期 における			ha当り収量		玄 米		籾摺 歩合	試験 年次
					草丈	穂長	1株 本数	玄米重	籾重	1立 重	千粒 重		
渡島支場	冷床	月日 8.12	月日 9.28	日 158	cm 81.7	cm 16.1	本 17.4	kg 4,209	kg 5,111	g 808	g 21.8	% 80.6	昭和年 26~33 欠29

(7) シンセツ (北海 130号B)

来歴ならびに育成経過

この品種は北海道立農業試験場上川支場で昭和17年に「亀田早生」を母とし、「石狩白毛」を父として人工交配を行ない、それ以来選抜固定をつづけて育成されたもので、昭和21年に「2139」、昭和22年に「2139—A」の仮名称をつけ、昭和24年に「北海 130号」昭和25年には「北海 130号B」の系統名をつけられた。昭和23年から地方適否試験を行なうと同時に岩見沢水稻試験地でも生産力検定試験および特性検定試験を行ない、昭和29年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期および成熟期は「タイセツ」と同程度で「石狩白毛」よりややおそい中生種に属する。
2. 草型は穂数型で中稈、穂の長さは中位で粒着はやや密、中芒で稈先の色は黄白である。
3. 稲熱病耐病性は「タイセツ」よりも強く「石狩白毛」よりわずかに劣る程度である。
4. 冷水抵抗性は「石狩白毛」よりやや劣り、「タイセツ」と同程度の中に属する。
5. 耐倒伏性は「石狩白毛」、「タイセツ」と同程度のやや強に属する。
6. 収量は標準肥料栽培で稲熱病の被害の少ない場合には「タイセツ」よりやや劣るが、多肥栽培の場合は「石狩白毛」より多収である。
7. 玄米は中形中粒で品質は良好である。

奨 励 範 囲

空知地方の中生種として、泥炭地および稲熱病発生地帯において、「タイセツ」にかわつて栽培するに適し、稲熱病の少ない地帯では「石狩白毛」にかわつて栽培するに適する。

試験場名	苗代 様式	出穂期		成熟期		生育 成 熟 期 に お け る			10 当り収量		玄 米		歩合	試験年次
		月日	月日	月日	月日	日数	草丈 cm	穂長 cm	1 株 茎数	玄米重 kg	稈重 kg	1 立 kg	千粒重 g	
旧 岩 見 沢 水 稲 試 験 地	冷床	8. 9	9.22	—	89.0	16.1	21	4,226	—	788	21.7	—	—	昭和 26~28 年
国 立 農 試 作 物 部	冷床	8.10	9.22	147	85.6	15.3	19	4,526	4,815	818	21.3	82.9	—	24~25, 30 32~33
同 美 唄 研究 室	冷床	8.12	9.27	127	85.7	16.1	21	3,680	5,002	781	21.5	80.8	—	26~27, 29 32~33

(8) キタミノリ (上育 183号)

米歴ならびに育成経過

この品種は昭和22年に北海道立農業試験場上川支場で、「石狩白毛」を母とし、「北海94号」を父として人工交配を行ない、雑種第3代まで集団選抜

を行ない、それ以後系統選抜をつづけて育成したものである。昭和26年に「261E」の仮名称をつけて生産力検定予備試験に供試するとともに、冷水抵抗性検定試験にも供試し、昭和28年には「上育183号」の系統名で耐病性、耐倒伏性の検定をおこなった。昭和29年には生産力検定本試験に編入し、同時に原種決定現地試験にも供試し、地方適否をもたしかめ、昭和32年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期は「水稻農林20号」、「ワセニシキ」と同程度であるが、成熟期はとくに直播栽培の場合にこれらの品種よりもややおくれ気味である。
2. 草型は中間型で稈長、穂長ともに中位に属し「水稻農林34号」と同程度である。粒着密度は中で、短芒を有し芒色は黄白である。なお稚苗の形態は葉色やや淡く、葉長長く、葉幅やや広く、「水稻農林34号」に似ている。
3. 節稻熱病、頸稻熱病および葉稻熱病に対する抵抗性はいずれも「水稻農林34号」より弱いが、「水稻農林20号」より強く中程度である。
4. 冷水抵抗性は「ワセニシキ」より強く、「水稻農林20号」「水稻農林34号」と同程度で強の部に属する。
5. 耐倒伏性は中程度であるが「水稻農林20号」よりやや強い。
6. 収量は低温年においては上川北部では「ワセニシキ」、「水稻農林20号」および「水稻農林34号」よりまさる。しかし上川中南部では「ワセニシキ」、「水稻農林20号」および「水稻農林34号」よりまさる。平常年では「水稻農林20号」よりややまさり、「ワセニシキ」および「水稻農林34号」とほぼ同程度である。
7. 玄米の形状はやや長く、千粒重量は「水稻農林20号」、「ワセニシキ」より重く、「水稻農林34号」とほぼ同程度である。腹白はやや多く、品質は中位で「水稻農林20号」、「ワセニシキ」より劣る。また食味もこれらの品種に比べるとやや劣るようである。

奨 励 範 囲

上川北部および本道中央部の山間地帯における安全確収品種として奨励す

る。

試験場名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 期 に お け			ha当り収量		玄 米		収割 歩合	試験年次
					草丈	穂長	1株 茎数	玄米重	稿俣重	1立 重	千粒 重		
上川支場	直播	8. 3	9.16	—	81.3	14.3	25	4,128	—	817	21.5	—	昭和 年 26~31
	冷床	8. 1	9.19	—	87.6	16.6	16	4,301	—	825	23.0	—	29~31
十勝支場	直播	8.15	9.30	—	85.6	13.9	21	2,544	4,505	779	21.5	78.7	29~33
	冷床	8.13	9.28	—	93.8	16.2	13	2,626	4,158	793	20.2	79.2	29~33
北見支場	冷床	8.14	9.28	143	89.0	16.6	20	3,656	6,819	782	21.2	80.8	28~30
天北支場	冷床	8. 7	9.27	150	65.5	17.3	14	3,003	3,373	801	23.0	78.6	32

(9) ナガミノリ (上育 201号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和22年に北海道立農業試験場上川支場で、「水稻農林17号」と「水稻農林34号」の雑種第1代を母とし、「大国早生」と「栄光」の雑種第1代を父として人工交配を行なった。いわゆる4系交配のもので、雑種第4代目まで集団選抜を行ない、それ以後系統選抜をつづけて育成したものである。昭和29年以降「上育 201号」の名称で生産力検定試験に供試するとともに、耐冷性、耐病性、耐倒伏性の検定を行ない、昭和31年から原種決定現地試験に供試し、地方適否をもたしかめ、昭和33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期は「水稻農林34号」よりややおそいが「栄光」よりやや早い。成熟期は「栄光」と大差がない。
2. 草型は穂数型で稈長、穂長ともに「栄光」なみ、粒着はやや密で中位の長さの芒が少しある。稈先には特別の色はない。
3. 稻熱病に対する抵抗性は全般的には「水稻農林34号」にはやや劣るが、「栄光」より強い。穂首稻熱病だけみると「水稻農林34号」にひつてきする強さを持っている。
4. 耐冷性のうち遅延型については「トヨヒカリ」程度であるが、障害型は「トヨヒカリ」よりも強い。しかし全般的にみればやや弱い。

5. 耐倒伏性は「栄光」よりやや弱く中程度である。
6. 収量は移植、直播ともに「栄光」にまさり、冷害年あるいは少肥の場合にとくにその差が大きい傾向がある。
7. 玄米の形状はやや長く、粒形はやや大で千粒重量は「水稻農林34号」程度である。品質は腹白が多く「栄光」より劣る。

奨励範囲

上川中南部を中心とする中生種地帯において「栄光」「トヨヒカリ」と配合して栽培するに適する。

試験場名	苗代 模式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 期 に お け る			ha当り収量		玄 米		籾摺 歩合	試験年次
					草丈 cm	穂長 cm	1株 実数	玄米重 kg	籾重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
上川支場	直播	8. 4	9. 25	131	80.5	14.5	35	4,402	—	825	22.7	—	昭和 年 30~32
	冷床	8. 5	9. 26	150	84.5	16.5	20	4,609	—	829	23.1	—	29~32
十勝支場	直播	8.22	10. 3	—	76.6	13.1	23	1,494	5,012	806	21.1	80.9	31~32
	冷床	8.14	9. 28	—	85.7	14.9	18	2,670	4,387	784	22.3	82.4	30~32
国立農試 作同 物部 美唄研究室	冷床	8.12	9.30	157	87.6	16.6	22	4,321	5,545	812	23.5	83.9	29~33
	冷床	8. 7	9.26	124	81.5	16.4	22	3,863	4,537	785	22.5	82.5	29~33

(10) フクニキ (上育 202号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和23年に北海道立農業試験場上川支場で、「北海 112号」を母とし「水稻農林34号」を父として人工交配を行ない、以来選抜固定をはかつてきたものである。昭和29年以降「上育 202号」の系統名で生産力検定試験と特性検定試験を行なつた。昭和31年からは原種決定現地試験に供試して地方適否をもたしかめ、昭和33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期は「水稻農林34号」と大差ないが、成熟期はややおそい。
2. 草型は穂数型で稈長、穂長共に「栄光」程度、粒着はやや密で無芒である。稈先に特別のちがいはない。

3. 稻熱病に対する抵抗性はあまり強くなく、「シラユキ」程度である。
4. 耐冷性は遅延型、障害型共に「水稻農林34号」よりまさり強の部になる。
5. 耐倒伏性は「榮光」「水稻農林34号」より弱く中程度である。
6. 収量は直播栽培では「水稻農林34号」に比べて昭和30年には大差なかったが、昭和31年、昭和32年ともに約10%余多い。移植栽培では「水稻農林34号」に比べてややまさる程度であるが、昭和31年の冷害年を除いても「榮光」、「トヨヒカリ」にひつてきする収量を示している。
7. 玄米の大きさは中程度、品質は腹白やや多く「水稻農林34号」より劣る。

奨励範囲

熟期および耐冷性の点から、早中生種地帯に適するが、耐病性の点からみて稻熱病の発生しやすいところでは栽培をさけるべきである。

試験場名	苗代 模式	出穂期	成熟期	生育 における			ha当り収量		玄米		刈摺 歩合	試験年次
				日数	草丈 cm	穂長 cm	1株 本数	玄米重 kg	籾重 kg	1立 kg	千粒 g	
上川支場	直播	8. 3	9.19	—	83.1	14.1	36	4,781	—	825	21.1	昭和30~32
	冷床	8. 2	9.19	—	87.1	16.1	20	4,627	—	825	20.6	29~33
十勝支場	直播	8.13	9.28	—	79.0	13.1	25	2,958	4,486	795	19.9	31~33
	冷床	8.12	9.30	—	88.7	15.5	17	3,141	4,393	805	20.3	31~33
北見支場	電熱 温床	8.19	9.25	145	85.0	16.6	19	3,195	7,570	796	19.3	31~33
	冷床	8.11	10. 1	157	92.1	15.1	25	4,801	5,523	808	21.9	29~33
国立農試 作物部 同美研研究室	冷床	8. 6	9.26	124	85.0	16.1	21	4,006	3,875	801	21.2	29~33

(11) ヤチミノリ (水稻農林 105号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和23年に北海道立農業試験場上川支場において「1718 (農林1号×農林15号)」を母とし、「水稻農林34号」を父として人工交配を行ない育成したものである。昭和24年にさらに北海道農業試験場作物部において

「1718」を戻交配、同25年以降は稲熱病耐病性を重点とし、泥炭地適応性および冷害抵抗性等についても考慮し集団および系統選抜をつづけた後、昭和30年に「岩系11号」の系統名を附して生産力検定予備試験を実施、同31年よりは本試験を行ない、同32年には「北海 166号」の系統名をつけて原種決定現地試験にも供試して地方適否をたしかめ、昭和33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期は「水稻農林34号」よりややおそく、「石狩白毛」とほぼ同程度で「栄光」よりやや早い。成熟期は「水稻農林34号」よりややおそく、「石狩白毛」と同程度である。ただし熟期が揃わない傾向にあり、倒伏した場合は登熟日数が長くなる。
2. 草型は偏穂数型、穂長は「水稻農林34号」よりやや短かく、やや短穂に属する。穂長は「水稻農林34号」および「トヨヒカリ」と同程度で中位に属する。粒着密度は中程度であるが、枝梗の基部にやや密の部分がみられる。無芒で稈先には着色しない。
3. 稲熱病に対する抵抗性は「水稻農林34号」と「石狩白毛」の中間または「石狩白毛」程度の強さを示し、強の部に属する。
4. 耐冷性は中程度で「水稻農林34号」と同程度である。
5. 耐倒伏性は「栄光」よりも弱く、弱の部に属する。
6. 収量は「水稻農林34号」および「石狩白毛」よりも多収であり、「栄光」と同程度である。
7. 玄米の形状は中形でやや大きく、千粒重量は「栄光」「トヨヒカリ」より重く、「水稻農林34号」とほぼ同程度である。品質は「水稻農林34号」より劣る。

奨 励 範 囲

熟期、収量および稲熱病耐病性の点からみて「水稻農林34号」「シンセツ」ならびに「石狩白毛」の一部に代わつて中生種地帯の中生の早品種として、とくに稲熱病の頻発する地帯に適する。稲熱病耐病性は「石狩白毛」程度に強いが、倒伏しやすく、登熟が不揃の傾向を示すので、泥炭地の新田にはさ

けるべきである。

試験場名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 成 熟 期 に お け る				ha当り収量		玄 米		歩合	試験年次
				日数	草丈 cm	穂長 cm	1株 本数	玄米重 kg	稈重 kg	1立 重 g	1粒 重 g		
天北支場	冷床	8. 6	9.25	148	76.1	16.5	17	3,321	5,163	815	21.0	80.8	昭和 33
空知支場	冷床	8.10	9.27	151	83.2	17.0	22	4,368	3,323	810	23.2	83.3	30~33
国立農試 作物部	冷床	8.12	10. 1	157	78.2	14.7	26	4,327	5,785	814	22.7	84.6	31~33
同英明研究室	冷床	8. 7	9.25	125	81.7	16.2	24	4,333	4,937	801	23.2	84.5	31~33

(12) ミマサリ (上育 214号)

来歴ならびに育成経過

北海道立農業試験場上川支場で、昭和22年(「巴錦」×「上育 142号」)を母とし、(「大野中稻」×「水稻農林34号」)を父として人工交配を行ない、雑種第3代までは集団選抜、それ以降は系統選抜を行ない、昭和28年に「2836」の仮名称をもつて生産力選抜試験に供試し、昭和30年に「上育 214号」の系統名を附して生産力検定予備試験に、昭和32年原種決定本試験に供試して、地方適否をたしかめ、昭和34年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期、成熟期とも「栄光」よりやや早く中生種に属する。
2. 草型は穂数型に属しやや短稈、穂長は「栄光」程度で比較的強稈で粒着はやや密、無芒である。
3. 稻熱病抵抗性は「水稻農林34号」程度でやや強の部に属する。
4. 冷水抵抗性は遅延型でやや弱く、「栄光」程度であるが障害型は「シラユキ」と同程度で強の部に属する。
5. 耐倒伏性は「水稻農林34号」よりやや劣り「栄光」程度の部に属する。
6. 収量は直播、移植ともに「栄光」、「トヨヒカリ」よりまさり、施肥量の多少にかかわらず多収である。
7. 玄米の形状はやや円形で中程度である。品質は腹白多く光沢中程度で外観は「フクユキ」「ナガミノリ」よりやや劣るが、食味は「フクユキ」程

度である。

試験場名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 期 に お け る			ha当り収量		玄 米		歩合	試験年次
					草丈 cm	穂長 cm	株 数	玄米重 kg	籾重 kg	1立 g	千粒 g		
上川支場	直播	8. 6	9.22	—	74.1	13.1	35	4,814	—	822	23.3	—	昭和 年 32~33
	冷床	8. 5	9.22	—	82.5	15.5	22	5,291	—	824	23.9	—	32~33
天北支場	冷床	8. 8	9.24	147	75.5	16.3	18	4,188	4,121	805	23.2	90.4	33
国立農試 美唄研究室	冷床	8. 7	9.25	125	81.7	16.2	24	4,333	4,937	801	23.2	84.5	30~32

(13) イワコガネ (水稻農林 119 号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和23年に旧農林省札幌農事改良実験所永山試験地において「1718」を母とし、「水稻農林34号」を父として人工交配を行ない、さらに昭和24年農林省北海道農業試験場作物部において、「1718」を戻交配、昭和25年稲熱病耐病性の個体検定、昭和26、27年には集団選抜を、北海道立農業試験場空知支場においては耐病性検定を行ない、昭和29年以降は主として空知支場において泥炭地適応性ならびに稲熱病耐病性を重点にして系統選抜をつづけた後、昭和30年に「岩系8号」の系統名をつけ、生産力検定予備試験を行ない、昭和31年以降各地で地方適否を検定した結果優良と認めたので、昭和35年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期は「榮光」、「ミマサリ」と同程度で、「トヨヒカリ」よりやや早い。
2. 成熟期は「榮光」よりおそく、「トヨヒカリ」と同程度である。
3. 草型は穂数型、稈長は「榮光」よりやや長く、やや長稈種に属する。
4. 穂はやや長く、粒着はやや密で無芒、稈先に着色はない。
5. 耐冷性は「榮光」、「ヤチミノリ」よりややまさり、やや強の部に属する。
6. 稲熱病耐病性は「榮光」より強く、「ヤチミノリ」と同程度である。

7. 耐倒伏性は弱の部に属するが、「ヤチミノリ」よりわずかにまさる。
8. 収量は「栄光」、「トヨヒカリ」より多収であるが、多肥条件では各種の障害をおこし「ミマサリ」程度の増収性を示さない。
9. 品質は「ヤチミノリ」、「ミマサリ」よりややまさるが、「栄光」より劣る。

奨励範囲

以上の特性からみて、「栄光」、「トヨヒカリ」、「ミマサリ」等の中生種地帯における配合品種として適し、また耐冷性、耐病性の点からみて「シンセツ」の一部にもかわりうる。

試験場名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 成 熟 期 に お け る				ha当り収量		子 実		収割 歩合	試験年次
				日数	草丈 cm	穂長 cm	穂数 本	玄米重 kg	稈重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
上川支場	冷床	8. 5	9.22	153	83.1	14.9	26.5	5,116	5,015	831	21.6	82.7	33~34
空知支場	冷床	8.12	9.30	155	88.1	16.8	23.0	4,486	—	801	23.3	82.3	30~34
岩手県 宇都宮 試験地	冷床	8. 8	9.21	—	81.2	15.3	18.3	5,060	—	—	—	—	33~34
国立農試 作物部	冷床	8. 9	9.23	152	85.6	12.2	27.2	5,636	—	804	20.8	83.3	33~34
国立農試 美唄研究室	冷床	8. 8	9.23	152	101.7	16.5	23.0	5,391	4,653	791	21.5	84.6	31~34

標 種

(14) オフクモチ (渡育 139号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和18年に北海道立農業試験場上川支場で「青森糯14号」を母とし、「福糯」を父として人工交配を行ない、昭和21年雑種第3代より渡島支場で選抜育成がつづけられた。昭和26年以降「渡育 139号」の育成番号により兄弟系統との比較試験が行なわれ、昭和31年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期および成熟期は「南糯」に比べて普通の年にはおそいが、冷害年にはむしろ早くなるので、冷害年の生育遅延による心配は少ない。

2. 分けつや穂長は「南糯」に比べてほとんどかわりないが、粒消は密で、短芒を有するものが多く、同じ穂の中に短芒と無芒のみられるのが特徴である。草丈はやや高いが倒伏は少ない。出穂当時稈先が紅色をていするが成熟すると褐色になる。
3. 稻熱病に対する抵抗性はおおむね強に属する。
4. 耐倒伏性は強い。
5. 収量は特に多収というほどではない。これはこの品種の特徴が耐病性、耐倒伏性にあるので被害の少ない場合の「南糯」に比べてあまり差がないためである。
6. 玄米の色沢や、餅とした場合の粘力、食味等については「南糯」とかわりがない。

奨 励 範 囲

この品種は本道糯品種中の最晩熟のものであるから、従来「南糯」の栽培されていた地帯で作るべきで、秋季早冷の地方で作ることは適当でない。「南糯」に代えて作る場合でも冷床苗により生育を促進させて栽培することが肝要である。

試験場名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 期 に お け る			ha当り収量		玄 米		収得 歩合	試験年次
					草丈	穂長	1株 米数	玄米重	稈重	1立 重	千粒 重		
渡島支場	冷床	月日 8. 9	月日 9.25	日 154	cm 91.1	cm 17.6	本 16	kg 3,901	kg 4,940	g 801	g 17.3	% 79.8	昭和 年 26~33 欠29

(15) 双 豊 糯

来歴ならびに育成経過

この品種は夕張郡長沼町、篠島清作氏の育成によるもので、昭和19年に「双葉1号」を母とし、「豊光山崎糯」を父として人工交配を行い、以降系統育種法により選抜育成を行ない、昭和24年に「神系75号」の系統名で生産力検定を行ない、昭和30年以降系統維持栽培を行なうとともに「双豊糯」と命名して地方試作を行なってきた。

北海道立農業試験場空知支場においては、昭和32年に種子の分譲をうけ生

産力検定試験を行ない、昭和33年以降地方適否を検定した結果優良と認めたので、昭和35年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期は石狩、空知の中南部、日高、胆振地方では「ユキモチ」と同程度かやや早く、空知北部、上川、留萌、天塩地方では3、4日早い。
2. 成熟期は各地とも登熟日数を多く要し、特に石狩、空知地方の泥炭地で後でできる土地では「ユキモチ」に比べてややおくれる。
3. 草型は扁穂数型で、稈長は「ユキモチ」より長く中稈に属する。穂長は「ユキモチ」よりやや長く、粒着密度は中で穂短芒を有し、稈先色は黄白である。
4. 耐冷性はやや強の部に属し、「ユキモチ」に比べ冷水による出穂遅延は少ない。
5. 稲熱病に対する耐病性は「ユキモチ」より強い。
6. 耐倒伏性は「ユキモチ」と同程度である。
7. 収量は「ユキモチ」と同程度であるが、不良年の場合または不良環境地帯ではやや多収である。
8. 玄米の品質は「ユキモチ」と同程度かやや劣り、特に青米が多い。餅質は「ユキモチ」よりややまざる。

奨 励 範 囲

以上の特性からみて、一部「ユキモチ」にかえることが望ましく、道北地方では「キタモチ」「ハシリモチ」と配合または、これにおきかえることが望ましい。

試験場名	苗代 様式	出穂期 月日	成熟期 月日	生育 日数	成 熟 期 に お け る			ha当り収量		子 実		歩合	試験年次
					草丈 cm	穂長 cm	穂数 本	玄米重 kg	精米重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
上川支場	冷床	7.29	—	—	—	—	—	4,999	—	—	—	—	昭和33~34
	直播	8.5	—	—	—	—	—	4,970	—	—	—	—	34
十勝支場	冷床	8.12	9.30	146	80.7	16.7	17.2	3,446	3,311	764	19.2	78.4	34

試験場名	苗代 様式	出穂期	成熟期	生育 日数	成 熟 期 に お け る			ha当り収量		子 実		初摺 歩合	試験年次
					草丈	穂長	穂数	玄米重	稈稈重	1立 重	千粒 重		
		月日	月日	日	cm	cm	本	kg	kg	g	g	%	昭和 年
北見支場	冷床	8. 7	10. 1	152	100.5	18.5	18.0	3,954	5,480	758	18.6	82.0	34
	直播	8.17	—	—	—	—	—	3,126	—	—	—	—	34
天北支場	冷床	8. 7	9.23	149	78.0	18.0	—	4,002	3,778	806	18.7	79.7	34
空知支場	冷床	8.11	9.28	154	85.1	18.3	23.0	4,450	—	803	20.6	82.4	32~34
国立農試 作物部	冷床	8. 6	9.20	151	81.6	13.4	25.2	4,990	5,724	795	18.7	81.8	33~34
国立農試 美唄研究室	冷床	8. 6	9.22	153	—	—	19.9	4,488	3,823	782	19.9	84.9	33~34

II 大麥および裸麥

春 播 大 麥

(1) 六角大関 (札育1号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和18年に北海道農業試験場において「町村大麥」を母とし、「早生六角」を父として人工交配を行ない、以後選抜固定を図り、昭和25年より生産力検定試験を行なうと同時に地方適否試験を行ない優良と認めたもので昭和28年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 密6条種に属し、穂は短かく太く、長芒を有し穂数はやや少ないが、草丈は短かく稈は太く耐倒伏性である。
2. 出穂期は「札幌六角」、「大樹大麥」よりやや早い、成熟期はそれらと同じ程度である。
3. 子実は大粒豊満で色はやや灰色を帯びる。稈率はやや高い。
4. 斑葉病にはやや強いが、小銹病抵抗性は「札幌六角」程度である。
5. 子実収量は多収である。

奨 励 範 囲

北海道中央部ならびに網走支庁管内に奨励普及する。

試験場名	出穂期	成熟期	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子実		試験年次
				草丈	穂長	30cm 莖数	子実重	稈重	1立 重	千粒 重	
十勝支場	月日 6.30	月日 8.1	日 95	cm 104.6	cm 5.2	本 29	kg 2,359	kg 2,983	g 632	g 36.3	昭和 年 26~33
北見支場	6.28	7.29	93	82.0	5.1	32	2,868	—	595	38.9	25~33
原々稲農場 女満別分場	7.3	8.3	95	67.6	4.6	23	2,137	—	593	36.3	29~33
天北支場	6.30	8.5	100	97.9	5.2	29	2,515	2,651	564	37.0	28~33

(2) 原 田 大 麦

米歴ならびに育成経過

この品種は昭和24年、河西郡中札内村上札内の原田将吉氏が、自家圃場で抜穂したものを昭和26年、北海道立農業試験場十勝支場において種子の分譲をうけ試作したところ、特性も固定しているので品種比較試験に入れて生産力を検定すると共に、地方適否試験を行なった結果優良と認め、昭和29年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. この品種は6条種で草丈は「大樹大麦」,「札幌六角」に比べてやや高い。穂長は両種に比べてやや短かく、芒は長い。茎は太く、耐倒伏性である。
2. 出穂期および成熟期は「大樹大麦」,「札幌六角」よりややおそい。
3. 子実の大きさは「札幌六角」と同程度で稃色は灰黄色である。
4. 斑葉病にはやや強く、小銹病抵抗性は「札幌六角」程度で、白濁病には強い。
5. 「大樹大麦」,「札幌六角」にくらべ多収である。

栽 培 適 地

この品種は倒伏ならびにその他の障害にも強いので、十勝地方の栽培環境のよくない地帯において配合品種として適する。

試験場名	出穂期	成熟期	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈	穂長	30cm間 葉数	子実重	稈科重	1立 重	千粒 重	
十勝支場	7. 3 月 日	8. 3 月 日	96 日	123.0 cm	6.7 cm	34 本	2,345 kg	3,845 kg	642 g	34.0 g	昭和 26~33 年
北見支場	6.31	8. 4	101	111.0	6.8	36	2,501	—	570	31.1	31~33
原々種農場 女満別分場	7. 6	8. 6	99	111.7	6.7	25	1,537	—	477	31.3	29~33

(3) アカソムギ (春播皮麦農林9号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和18年に北海道農業試験場において「町村大麦」を母とし、「早生六角」を父として人工交配を行ない、雑種第2代まで集団採種を行ない、昭和22年に雑種第3代を栽植して個体選抜を行なった。以後選抜固定を図り、雑種第6代から「札育2号」の名称の下に生産力検定予備試験を行なった。しかし固定度が充分でなかつたため、第8代にいたつて北海道立農業試験場北見支場において生産力検定予備試験に供試した材料の中から集団選抜を行なつて、「札育2号〜2」として生産力を検定するとともに系統選抜を併行した。昭和29年には同支場大麦指定試験地が創設されたので、この事業が引継がれ、昭和30年から「北統5号」として育成系統生産力検定試験に供試すると同時に、各市町村において委託試験を行ない、昭和32年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 四角種に属し、穂は粒着疎で長く、長芒を有し、穂数中位で草丈は比較的高く株は閉じているが稈太く、耐倒伏性は「六角大関」よりやや弱いが一様にやや強の部に属する。磷酸欠乏抵抗性は強い。
2. 出穂期、成熟期ともに「札幌六角」より1〜2日位おそく、中生に属する。
3. 子実は醸造用大麦に似て大粒豊満で、品質は良好である。精麦歩留は「札幌六角」、「六角大関」よりも高く、搗上り時間短く、且つ搗上り後の粒張りも良好である。千粒重、1立重は道内既成品種中で最も重い。

4. 小锈病、白渋病、斑葉病などの病害に対する抵抗性は他の品種と同程度である。

5. 各地における成績では極めて多収性であつて、「札幌六角」より40～50%多く、その他の品種に比べて10～20%の増収を示している。

奨励範圍

比較的肥沃でない普通地に適し、また磷酸欠乏抵抗性が強いので、磷酸に不足している火山灰地、あるいは開拓地に栽培されてよい。食糧として裸麦の生産不振地帯に、あるいは飼料として栽培されることも可能で、適応範圍は全道一円におよぶものと考えられる。

試験場名	出穂期	成熟期	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子実		試験年次
				草丈	穂長	30cm間 数	子実重	稈稈重	1立 重	1粒 重	
十勝支場	月日 6.28	月日 8.6	日 102	cm 120.0	cm 9.0	本 40	kg 2,649	kg 3,621	g 614	g 38.3	昭和 年 31～33
北見支場	6.30	8.3	100	103.0	9.0	35	3,229	*384.4	591	40.4	28～33
大 麦 指 定 地 試 験 地	7.7	8.6	98	114.9	8.9	30	2,246	312.7	617	37.5	29～33
根室支場	7.16	8.20	100	110.7	8.6	50	2,144	3,484	620	38.7	31～33
天北支場	7.2	8.8	102	117.5	9.0	30	2,821	3,648	568	37.8	31～33

* 昭和31、32年の平均

(4) マシユウムギ (春播皮麦農林15号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和18年北海道農業試験場において、「町村大麦」を母とし、「早生六角」を父として人工交配を行ない、以来選抜固定を図り雑種第6代から「札育2号」の名称で生産力検定予備試験に編入した。しかし固定度が十分でなかつたため、雑種第8代にいたつて北海道立農業試験場北見支場において集団選抜を行なつて「札育2号～1」として、生産力を検定するとともに個体選抜を併行し、以来系統育成を行なつて、昭和29年に新設された北見支場大麦指定試験地(女満別町)に引つがれ、「北統1号」として生産力検定を行なうと同時に各地において、地方適否を検定した結果優良と認め、昭和35年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 草状は両親の中間型である。条列は6条にして穂型は四角で「六角大関」より長い。穂の密度は中、芒は長芒であるが脱芒は容易である。
2. 成熟期は「六角大関」より2～3日おそく、「アカンムギ」よりやや早い。
3. 白渋病、黄銹病、小銹病には強いとはいえないが「六角大関」よりやや強い。
4. 稈は太く強いので耐倒伏性は強い。
5. 子実収量は「アカンムギ」程度で、「札幌六角」、「六角大関」よりは2、30%増収する。
6. 子実は「アカンムギ」と同じく黄白色大粒で、品質はよい。精麦歩留は「六角大関」より高く、「アカンムギ」程度である。

奨 励 範 囲

「六角大関」に代わる倒伏に強い品種として比較的肥沃な倒伏の危険のある地帯、または根室、釧路、十勝地方の濃霧地帯、北見沿岸地帯に栽培されてよいと考える。

試験場名	出穂期	成熟期	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		精麦 歩合	試験年次
				草丈 cm	穂長 cm	30cm 間茎 数	子実重 kg	稈重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
上川支場	7. 3	8. 2	—	106.3	6.3	29	2,600	—	585	45.6	—	昭和 34
十勝支場	6.30	8. 4	—	108.6	6.6	38	2,548	—	615	37.2	—	30～34
北見支場	6.30	8. 3	**98	103.8	6.8	34	3,252	**303.0	589	37.8	—	30～33
大指定試験地	7. 4	8. 3	*100	113.6	6.6	34	2,507	**340.7	609	36.1	72.0	30～34
根室支場	7.14	8.16	—	99.9	5.9	32	2,028	—	615	34.9	—	30～34
天北支場	6.30	8. 5	—	117.9	6.9	34	3,248	—	573	37.7	—	32～34
国立農試 畜産部	6.28	8. 3	—	105.8	6.8	32	2,780	—	633	43.4	—	30～31

* 昭和30～32年平均

** 昭和33～34年平均

(5) 春 星

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和16年日本麦酒会社科学研究所吹田分室において「ハルビン2条」を母とし、「ボヘミヤ8号」を父として人工交配を行ない、昭和17年以降日本麦酒会社科学研究所新琴似試験地にて選抜固定を図り、地方適否を検定してきたもので、北海道立農業試験場においても北見、上川両支場とともに生産力検定試験を行ない、昭和28年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期、成熟期ともに「ハルビン2条」程度である。
2. 穂型は二角直立種で茎数中位、稈はやや太く、稈長、穂長は「ハルビン2条」と大差がない。
3. 斑葉病、小銹病は「ハルビン2条」より強い。
4. 子実は穀皮やや厚く、蛋白質やや多く、醸造用として良質といえない。
5. 子実収量は本場では「ハルビン2条」より多く、北見、上川両支場ではこれと同程度で多収である。

奨 励 範 囲

全道的品種として奨励する。

試験場名	出穂期	成熟期	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈	穂長	30cm間 株数	子実重	稈重	1立 重	千粒 重	
北見支場	月 日 7. 8	月 日 8. 6	日 96	cm 101.0	cm 7.0	本 40	kg 1,985	kg —	g 635	g 46.1	昭和 年 29~33

裸 麥

(6) 根 室 裸 (根育6号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和22年、北海道立農業試験場根室支場において「さなだ麦」を母とし、「米国4号」を父として交配を行ない、昭和27年から生産力検定予備試験を、昭和28年から「根育6号」の系統名で試験を行ない、昭和31年

3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期，成熟期ともに「丸実16号」や「北見裸」よりややおそい。
2. 耐倒伏性は比較的強く，穂の形状は四角で粒着は疎で長い芒を有する。
3. 小錆病，斑葉病には比較的強い。
4. 子実は飴色で，大きさは「丸実16号」よりやや大きく，品質は良好である。
5. 食味は「米国4号」よりやや劣るが佳良である。
6. 子実収量は「丸実16号」，「北見裸」より多収である。

奨 励 範 囲

早中熟種栽培地帯に広く適すると思われるが，一応釧路内陸および根室内陸地帯における「丸実16号」，「北見裸」の更新品種として，また大麦の配合品種として奨励する。

試験場名	出穂期	成熟期	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈	穂長	30cm 株数	子実重	稈重	1立 重	千粒 重	
十勝支場	7. 7	8. 7	99	102.5 cm	7.3 cm	28	958 kg	1,869 kg	702 g	30.5 g	昭和 年 29~32
北見支場	7. 1	8. 7	103	97.8	5.8	40	2,116	—	609	29.8	31~32
大麦指定 試験地	7. 5	8. 4	95	94.0	6.0	30	1,553	—	660	31.1	31~33
根室支場	7.13	8.23	97	97.6	4.8	46	1,762	2,810	684	31.0	29~31

III 小 麥

春 播 小 麥

(1) キタミハルコムギ (北育3号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和22年，旧農林省札幌農事改良実験所琴似試験地において，「(Mido×Pilot)」を母とし，「春播小麦農科29号」を父として人工交配を行ない，以後選抜を重ね，昭和26年雑種第4代より北海道立農業試験場北見支場において選抜固定を図った。以来各地で地方適応性検定試験に供試し，昭

和29年より「北育3号」という地方番号をつけ、生産力検定試験と同時に原種決定現地試験を行なった結果優良と認めたので、昭和33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 草型は「春播小麦農林29号」型で、強稈、やや長穂で1穂粒数は多いが穂数はやや少ない。
2. 赤銹病、黄銹病には「春播小麦農林29号」よりかなりの抵抗性をもっている。黄銹病には「春播小麦農林29号」なみ、赤黴病には「春播小麦農林29号」より弱い傾向がみられる。
3. 収量は「春播小麦農林29号」より多く、また年により場所による変動は少ない。
4. 子実は赤粒、中間質で硝子率は年により高くなる場合がある。品質は「春播小麦農林29号」なみである。

奨 励 範 囲

主として網走支庁管内の「春播小麦農林29号」が飼伏する地帯、および銹病の多発地帯に「春播小麦農林29号」および「春播小麦農林75号」と適宜配合して奨励する。

試験場名	出穂期	成熟期	生育日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈	穂長	30cm間 莖数	子実重	稈重	1立 重	千粒 重	
十勝支場	7. 2	8.14	109	118.7	9.5	54	2,315	3,874	736	362	昭和 年 30~33
北見支場	7. 1	8.11	110	110.2	9.5	48	2,460	—	739	384	28~33

秋 播 小 麥

(2) ホ ク エ イ (本系 331号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和17年北海道農業試験場小麦試験地において、「赤銹不知1号」を母とし、「小麦農林58号」を父として人工交配を行ない、以後選抜固定を図り、昭和24年「本系 331号」の系統名をつけ女満別麦類試験地に配付、

昭和25年以降北海道立農業試験場北見支場において、生産力検定試験を行なうとともに、系統育成ならびに特性検定試験を行なつたところ、優良と認めたので昭和29年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 短稈，直立にして多けつ型である。穂は無芒褐稈，幼苗の姿勢は中間型葉身比較的細く，葉色はやや濃緑である。
2. 耐寒性は強く冬枯は「赤錆不知1号」と同程度であるが，大粒菌核病にはやや弱く，「ドーソン1号」に比べると冬枯の危険性は少ない。
3. 出穂期は「赤錆不知1号」より2日ほど早い，成熟期は大差がない。
4. 子実は大粒で粒形は中，豊満で，粉状質である。
5. 小麦赤錆病にはかなりの抵抗性を示し，「サビマサリ」より強い。
6. 稈は太くないが短稈で直立し，ほとんど倒伏しない。
7. 穂数多くきわめて多収性で，特に多肥栽培および肥沃地においていちぢるしい増収性を發揮する。

奨 励 範 囲

網走および十勝支庁管内，特に肥沃地帯の根幹品種として「赤錆不知1号」，「ドーソン1号」におきかえるとともに，火山性土地帯では「サビマサリ」と適宜配合して栽培するとよい。

試験場名	出穂期 月日	成熟期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		冬損 歩合	試験年次
				草丈 cm	穂長 cm	30cm間 葉数	子実重 kg	稈重 kg	1立 重g	千粒 重g		
十勝支場	6.15	7.27	313	113.5	7.7	69	3,559	5,524	762	40.8	5.0	26~33
北見支場	6.14	7.25	315	104.6	8.6	72	3,860	—	761	38.6	4.6	25~33
根室支場	6.29	8. 8	300	91.8	6.9	75	1,142	2,781	718	38.2	—	31~33
天北支場	6.20	8. 5	329	108.5	9.8	48	2,079	4,522	707	32.7	32.5	30~33
国立農試 作物部	6.11	7.27	313	103.0	9.2	63	3,371	6,332	752	35.5	—	29~32

(3) サビマサリ (本系 300号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和17年北海道農業試験場において「赤錆不知1号」を母と

し、「小麦農林39号」を父として人工交配を行ない、以後選抜固定を図り、昭和22年「本系 300号」なる系統名を附し、同年より女満別麦類試験地において、また昭和23年より北見支場において生産力を検定するとともに地方適否を検定したところ、優良と認めたので、昭和28年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 「赤錆不知1号」より草丈は高いが、莖稈は太く強剛なので倒伏は少ない。
2. 冬枯に強く春先の生育は旺盛である。
3. 出穂期、成熟期とも「赤錆不知1号」より2、3日おそい。
4. 穂は白稈で無芒、穂長は長い。
5. 子実は長形、大粒で豊満千粒重量は重く中間質小麦であるが、多収な年は粉状質になりやすい。
6. 赤錆病には強く、生育後期には発生するが、抵抗性は強の部に属する。
7. 子実収量は「赤錆不知1号」と同じ程度かややまさり、少肥栽培の場合増収率は大きい。

栽 培 適 地

網走支庁管内に適し、沖積土で肥沃度の中ようなところ、または火山性土地帯に好適する。

試験場名	出穂期 月日	成熟期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		冬損歩合	試験年次
				草丈 cm	穂長 cm	30cm間 本数	子実重 kg	稈稈重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
十勝支場	6.18	7.28	313	137.2	8.5	55	2,553	7,219	755	45.7	7.0	昭和 24~33
北見支場	6.18	7.28	317	138.2	9.2	68	3,200	—	760	43.1	5.0	24~33
根室支場	7. 1	8.12	306	119.8	8.5	66	1,135	3,992	703	41.3	多	31~33
天北支場	6.23	8. 6	330	130.1	11.1	66	1,724	6,233	673	39.5	34.0	30~33
国立農試 作物部	6.14	7.27	314	140.0	10.6	97	3,083	5,988	755	44.5	極少	30~32

(4) 大 中 山

来歴ならびに育成経過

この品種は亀田郡七飯村大字大中山部落の農家が作つていたものという程

度で、その来歴は明らかではない。北海道立農業試験場渡島支場ではこの種子の分譲をうけて試作したが、各種の形質が混在しているので、昭和26年に純系分離を行なった。しかしこれは品種の混合でなく、実は遺伝的雑種であつて、未だ分離することがわかつた。すなわち10数年間農家の手によつて栽培がくりかえされ、ラムシユによる最後の整理段階となつたのである。

発祥地の名をつけ「大中山」と称し、育成をつづけ、有望と認めたので昭和30年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 草丈は110～120cm程度の短程で倒伏しない。
2. 赤銹病に強い。
3. 穂型は棒状で、無芒、稈色は褐色である。
4. 粒色は赤色で、粒型はやや短かく、大いさは中粒である。硝子率61.5%である。
5. 収量は安定しており、年による差は少なく、多収である。

奨 励 範 囲

冬損の心配はないが、道南以外では調査未了のため適地の判定は困難であるので、一応道南向きの品種として決定された。

試験場名	出穂期	成熟期	生育日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈	穂長	30cm ³ 莖数	子実重	稿稈重	1立重	千粒重	
	月日	月日	日	cm	cm	本	kg	kg	g	g	昭和 年
渡島支場	6. 5	7. 23	313	112.0	9.1	75	2.971	6.165	718	39.7	27～33 欠 30
天北支場	6.14	8. 3	308	99.3	8.9	39	1.662	4.175	691	35.5	30～31

(5) 改良伊達早生

来歴ならびに育成経過

この品種は北海道立農業試験場渡島支場において、昭和28年に伊達町の広瀬弘夫氏より俗称「伊達早生小麦」の種子分譲を受け1粒播を行ない、選抜固定を図り、「伊達早生小麦」の基本型を失わずして統一優良な系統の育成に努めたのである。従来不純であつた「伊達早生小麦」を改良し純度を高め

たということでこの品種名がつけられ、昭和32年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期、成熟期ともに「大中山」より7日内外早く、また他のいずれの種に比べても最も早熟である。
2. 草丈は80~90cmの短強稈で倒伏することなく、又草型は直立するので間作を行なうに適している。
3. 赤銹病、黒銹病に対する耐病性が強い。
4. 冬損は「小麦農林62号」程度で、特に強いとはいわれないが、実用的に支障はない。
5. 子実収量は「大中山」に次ぐ多収である。また肥沃地に栽培し、あるいは多肥栽培を行なうとさらに増収する。
5. 硝子率は高いが蛋白質の含量は特に多いというほどでなく、硬質品種としてあつかわれる「小麦農林8号」よりおとる。粒色、粉色ともにやや暗色をていするので、明色を喜ぶ精粉からみれば多少不利で、品質は中位である。

奨 励 範 囲

在来の「伊達早生小麦」に代えて栽培し、「大中山」と組入れ、道南地方に限定奨励するものとする。

試験場名	出穂期 月日	成熟期 月日	生育 日数 日	成熟期における			ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈 cm	穂長 cm	30cm間 本数	子実重 kg	稈重 kg	1立重 g	千粒重 g	
渡島支場	5.28	7.14	304	93.4	8.4	75	2,854	5,173	733	37.6	昭和29~33 欠30

IV 燕 麥

(1) 黒 実 1 号 (純(4)—22)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和23年に北海道立農業試験場根室支場において、「黒実」から純系淘汰によつて育成したもので、昭和26年より生産力検定試験を行ない。昭和28年には各試験機関で地方適否を確かめたもので、昭和29年2月優

良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 出穂期、成熟期は「黒実」と同じである。
2. 草状ならびに穂型は「黒実」によく似ているが、稈長、穂長はともに短かく、茎数はやや多いが、茎は太く強剛である。
3. 子実の色は「黒実」より淡く、品質は同程度であるが、秤率はやや高い。
4. 子実収量は「黒実」より多く、確收性は高い。

奨 励 範 囲

この品種は強稈多収であるから、根柢地方のような多湿で倒伏の被害の多い地帯に適する。

試験場名	出穂期	成熟期	生育 日数	成熟期における				ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈	穂長	30cm 葉数	株数	子実重	稈重	1立重	千粒重	
十勝支場	7.17	8.22	115	150.6	22.0		27	2,615	3,822	496	342	昭和 年
根室支場	7.31	8.26	116	123.6	22.4		32	2,306	3,895	446	332	28~33
天北支場	7.12	8.22	118	150.2	25.2		29	4,018	4,833	410	311	28~33

(2) ホ ナ ミ (春播燕麦農林 2号)

系 歴 ならびに 育 成 経 過

この品種は昭和17年に、北海道農業試験場において「黒実」を母とし、「ビクトリー1号」を父として人工交配を行ない、以後選抜固定を図り、昭和23年に「本系68号」と命名され、昭和24年には生産力検定予備試験に編入し、昭和27年から生産力検定試験を行ない、その後各地でも試験を行なった結果優良と認めたので、昭和34年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 「ビクトリー1号」に比べると稈長は短かく、強稈、穂長は長い。
2. 出穂期、成熟期ともに「ビクトリー1号」より2、3日おそい。
3. 秤率は「ビクトリー1号」より多いが「前進」に比べると約3%位下回る。

4. 収量は「ピクトリー1号」より多収であるが、「前進」より少ない。

5. 冠状銹病抵抗性は「黒実」と同程度で強いとはいえない。

奨励範囲

根室地方における成績は良好で、道東地方に好適するものと思われるが、全道一円に適するものとする。地域的に強度の耐倒伏性を求める場合、または銹病被害のはなはだしい地帯は対象外とすべきである。

試験場名	出穂期 月日	成熟期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子実		試験年次
				草丈 cm	穂長 cm	30cm 本数	子実重 kg	稈重 kg	1立重 g	千粒重 g	
十勝支場	7.16	8.19	115	136.4	22.0	26	2,809	3,805	485	33.2	昭和29~33
北見支場	7.10	8.12	—	129.4	21.4	51	4,200	5,270	428	31.7	30~33
根室支場	8.1	8.26	—	156.1	22.0	39	2,120	3,830	375	30.5	31~33
天北支場	7.15	8.25	121	139.2	24.5	31	3,838	4,745	415	32.0	29~33
国立農試 畜産部	7.11	8.17	—	144.4	24.3	28	3,790	4,610	473	30.3	27~33

V 玉 蜀 黍

硬 粒 種

(1) 玉蜀黍交4号(月交193号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和15年より旧農林省札幌農事改良実験所において、「坂下」並びに「Mais Peta」より育成した自殖系統を、昭和26年組合せたフロント種の3系交配一代雑種(N21×N19)×T6である。昭和27年より北海道農業試験場畜産部において生産力検定を行ない、昭和30年より北海道立農業試験場各支場に配付して、適応性を検討してきたもので、昭和32年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 粒は橙黄色で、絹糸抽出期は道内各地とも「坂下」に比較して大差ない。
2. 子実収量は「坂下」に比べて40%前後の増収である。

3. 草勢は「坂下」よりやや良好で、かつ葉身に紫色を帯びる部分がある。
4. 雌穂は粒列8～16列、円錐型に近く粒はやや小で、熱帯系フリント種の中間型を示す。

その他の特性は「坂下」に比較して大差がない。

奨励範囲

子実用として北海道東北部すなわち十勝、北見地方およびその他の「坂下」奨励地帯に適する。

試験場名	抽出期		成熟期	生育 日数	成熟期 における		ha当り収量		子実		試験年次
	雄穂	雌穂			草丈	穂長	子実重	稈重	1立 重	千粒 重	
道立農試 芸部	月日 7.30	月日 8.5	月日 9.19	128	cm 211	cm 17.9	kg 4,873	kg 3,750	g 756	g 307	昭和年 29～33
十勝支場	8.3	8.9	9.27	133	248	—	5,267	4,974	702	333	29～33
北見支場	8.1	8.10	9.28	132	232	18.7	4,975	—	743	313	30～33
天北支場	—	8.11	9.29	132	211	22.6	6,050	—	681	338	33
国立農試 畜産部	8.1	8.9	9.29	138	—	18.6	4,492	—	718	307	27～31

甘味種

(2) タナバタワセ (札交5322)

来歴ならびに育成経過

甘味種×硬粒種により都市近郊の蔬菜用として、生食用極早生種の育成を目標として、北海道立農業試験場芸部において昭和28年に交配(キワセ×C13)を行ない、昭和29年より検定を行なつた。また各場においてもそれぞれ生産力の検定が行なわれたがその結果優良な組合せと認められたので、昭和34年1月優良品種に決定した。

特性概要

1. 品系交配種なので草丈、着穂高共に低い。
2. 雌穂は粒列8～14行で、粒形はやや大きな黄色種である。粒はフリント種のうちスイート種が混入しているほかは、外観食味共に「ゴールデンバンタム」に似ている。

3. 生食用極早生種で、熟期は「黄早生」に比べて2, 3日おくれるが、「ゴールデンパンタム」に比べて10~12日早く、「ゴールデンパンタム」より多収である。

奨励範囲

本道中部地域で8月中旬でも露地栽培にて生食可能である。生食用極早生種として都市近郊の早出しとうもろこしとして奨励する。

試験場名	抽出期		収穫 適期	生育 日数	成熟期 における		10当り穀穂量 収		子実		食味	試験 年次
	雄穂	雌穂			草丈 cm	穂長 cm	穂重 kg	経済 重量 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
道立農試 種芸部	月日 7.19	月日 7.25	月日 8.18	日 —	127	15.9	5,933	4,675	—	—	中の上	昭和年 29~33
十勝支場	7.19	7.25	9. 8	116	143	—	3,342	3,286	694	267	—	33

(3) ゴールデン クロス パンタム

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和27年に北海道農業試験場が米国インディアナ州農業試験場
ブランソン教授より、その親系統とともに分譲を受けたスイート種単交配一
代雑種(P39×P51B)である。昭和28年より畜産部飼料作物第2研究室に
おいて生食または加工用として生産力検定を行ない、昭和30年より一部支場
その他に配付して適応性を併せ検討してきたもので、昭和31年3月優良品種
に決定した。

特 性 概 要

1. 粒は黄色で、粗糸抽出期は「ゴールデンパンタム」より約10日おそく、
中晩熟種である。
2. 生食適期における経済雌穂重は、「ゴールデンパンタム」に比べて50%
前後の増収率を示す。
3. 食味は「ゴールデンパンタム」より良好で、甘味も強く、生食用のほか
罐詰加工原料として適当している。
4. 草勢は「ゴールデンパンタム」よりはるかに良好で、分けつの多い特性
を有し、生食または加工用として雌穂を収穫した残茎葉は家畜の嗜好にも

適し、T.D.N（総可消化栄養分）は黄熟期収穫のデントコーン全植物体の70%弱の飼料価値もあるので、生飼草として利用性を有している。

奨励範囲

この品種は生食または罐詰加工用として、北海道中、南部地方の栽培に適し、平年の気象であれば十勝中央部地方でも栽培可能である。

試験場名	抽出期		収穫 適期	生育 日数	成熟期 における		ha当り穀穂量		子実		試験年次
	雄穂	雌穂			草丈	穂長	重量	経済 重量	1立 重	千粒 重	
道立農試 種芸部	8.10	8.17	9.9	—	cm 195	cm 17.2	kg 8,412	kg 8,232	g —	g —	昭和 年 30~33
十勝支場	8.9	8.16	10.7	144	220	—	子実 3,283	稿穂 4,697	579	218	30~33
北見支場	8.9	8.19	10.4	140	232	16.5	3,233	—	581	192	32~33

(4) イエロースイート（札交5207）

来歴ならびに育成経過

本道に適應する甘味種の早生種として「ゴールデンパンタム」に替るべき1代雑種を得んとして北海道立農業試験場種芸部において昭和27年に交配{(C13×C30)×セルボア}を行ない、昭和28年より検定を行なつた。昭和34年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 「ゴールデンパンタム」と熟期は同じで早熟種に属し、「ゴールデンクロスパンタム」より10日位早い。
2. 穀穂は粒列8～10行で「ゴールデンパンタム」より雌穂長および雌穂径ともに大きい。
3. 食味は「ゴールデンパンタム」とほぼ同じで「ゴールデンクロスパンタム」よりややおとる。
4. 収量は雌穂重、経済雌穂数ともに「ゴールデンパンタム」より4、5割以上多収である。
5. 単交配×品種であるため採種量は大きく、単交配組合せより種子生産費は安い。

奨励範囲

生食用早生種として、「ゴールデンバンタム」栽培地域に奨励する。

試験場名	抽出期		収穫 適期	生育 日数	成熟期 における		ha当り穀量 収		子実		試験年次
	雄穂	雌穂			草丈	穂長	重量	経済重量	1立 重	千粒 重	
道立農芸部 十勝支場	月日 7.27	月日 8.4	月日 8.27	日 —	cm 164	cm 16.2	kg 7,740 子実	kg 7,529 稿稈	g —	g —	昭和年 30~33
	7.29	8.6	9.26	134	169	—	4,138	3,254	598	286	32~33

(5) 複交4号(W275)

未歴ならびに育成経過

この品種は昭和26年に米国ウイソコンシン農業試験場から自殖系統とともに複交配種子の分譲を受けた。この品種はいわゆる自殖系統間1代雑種で、組合せの内容は(W-9×W-M13R)×(W-49×W-H)で昭和27年以来北海道立農業試験場種芸部で「W275」の系統名をつけ適応性の検定を行ない、一方導入した系統から複交配を採種し、昭和30、31の両年は道内各支場および一部現地試験をあわせ行ない、地方適応性の検討を行ない昭和32年3月優良品種に決定した。

特性概要

絹糸抽出期は札幌、滝川、士別では8月上旬、北見、十勝では8月中旬で「坂下」とほぼ同程度の熟期のデント種の多収品種である。草丈は中庸で、穀穂は粒列10~18行で子実は黄色である。

奨励範囲

「坂下」にかわる子実用デント種として、「坂下」の栽培地帯に奨励する。

試験場名	抽出期		成熟期	生育 日数	成熟期 における		ha当り収量		子実		試験 年次
	雄穂	雌穂			草丈	穂長	子実重	稿稈重	1立 重	千粒 重	
道立農芸部 十勝支場	月日 7.28	月日 8.5	月日 9.20	日 129	cm 199	cm 14.3	kg 4,335	kg 3,575	g 735	g 268	昭和年 29~33
	8.2	8.9	9.26	132	220	—	4,706	4,718	683	292	30~32
北見支場	7.29	8.9	9.29	133	217	16.0	4,997	—	690	305	30~33
天北支場	—	8.11	9.29	132	211	19.5	4,420	—	640	283	33

(6) 複 交 5 号 (W 355)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和26年に、米国ウイスコンシン農試から自殖系統とともに複交配種子の分譲を受けた。この品種はいわゆる自殖系統間1代雑種で、組合せの内容は (W-9×W-M13R) × (W153R×W-25) で、昭和27年以来北海道立農業試験場種芸部で「W 355」の系統名をつけ適応性の検定を行ない、一方導入した系統から複交配を採種し、昭和30、31の両年は道内各支場および一部現地試験を併せ行ない、地方適応性の検討を行ない、昭和32年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

絹糸抽出期は「複交4号」より3日前後おくれ、成熟期は約1週間おそい。したがって熟期はほぼ「ロングフェロー」程度で、「U-26」よりはかなり早い。草丈は中ようで穀穂は粒列10~18行で子実は黄色のデント種である。収量は道中央部以南では多収で、同地帯の早生子実用デント種として適する。

試験場名	抽 出 期		成熟期	生育 日数	成 熟 期 における		ha当り収量		子 実		試験年次
	雄穂	雌穂			草丈	穂長	子実重	稈稈重	1立 重	千粒 重	
道立農試 種芸部	月日 8. 2	月日 8. 8	月日 9.26	日 135	cm 208	cm 14.2	kg 4,300	kg 3,545	g 729	g 274	昭和 年 29~33
十勝支場	8. 6	8.14	10. 1	137	230	—	4,891	5,227	661	289	30~33
北見支場	8. 8	8.14	10. 2	137	228	15.6	4,213	—	640	262	29~33
天北支場	—	8.10	9.29	132	211	19.3	4,360	—	643	275	33

(7) 複 交 6 号 (札交2837)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和26年に北海道立農業試験場種芸部において次の組合せ内容 (ND-283×A-171) × (W-H×W-9) により複交配の交配が行なわれ昭和27年以来「札交2837」の系統名をつけ生産力の検定が行なわれた。昭和

30, 31の両年には道内各支場で、また昭和31年には一部現地試験を実施し、地方適応性の検討を行ない昭和32年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

絹糸抽出期は各地とも7月下旬で、成熟期も「坂下」よりやや早く、かつ多収である。草丈は中庸で、穀穂の粒列10～18行で、子実はやや黄色、一部白色粒が混入する。

奨 励 範 囲

道東、道北地帯の自家用の飼糧として安全性が高く好適である。

試験場名	抽 出 期		成熟期	生育 日数	成 熟 期 における		ha当り収量		子 実		試験年次
	雄穂	雌穂			草丈	穂長	子実重	稈稈重	1立 重	千粒 重	
道立農芸部	7.27	8.3	9.16	125	200	14.7	4,213	3,125	737	247	昭和29～33
十勝支場	7.31	8.7	9.24	130	217	—	4,167	3,574	695	259	30～32
北見支場	7.29	8.8	9.26	129	217	16.5	5,221	—	704	285	30～33
天北支場	—	8.6	9.24	127	209	20.4	5,120	—	667	293	33

(8) 複 交 7 号 (札交2720号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和26年に北海道立農業試験場種芸部において次の組合せ内容 (W—M13×A—357) × (W—W×W—28) により複交配の交配が行なわれ、昭和27年以来「札交2720」の系統名をつけ、生産力の検定が行なわれた。昭和30, 31の両年には道内各支場で、また同31年には一部現地試験を実施し地方適応性の検討を行ない、昭和32年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

絹糸抽出期、成熟期ともに「複交6号」よりおそく、「複交4号」よりは早い。草丈やや高く、穀穂は粒列10～18行で、子実は黄色のデント種で極めて多収である。

奨 励 範 囲

「ロングフェロー」にかわる子実用デント種として、「ロングフェロー」

栽培地帯に適する。

試験場名	抽出期		成熟期	生育 日数	成熟期 における		ha当り収量		子実		試験年次
	雄穂	雌穂			草丈	穂長	子実重	稈重	1立 重	千粒 重	
道立農試 種芸部	月日 8. 2	月日 8. 6	月日 9.21	日 130	cm 213	cm 14.3	kg 4,797	kg 3,611	g 727	g 273	昭和 年 29~33
十勝支場	8. 5	8.10	9.26	132	233	—	4,658	5,336	679	267	30~32
北見支場	7.31	8.10	9.30	133	225	15.9	5,214	—	701	290	30~33
天北支場	—	8.14	10. 5	136	228	18.7	4,290	—	621	257	33

(9) 複交8号(札交2728)

米歴ならびに育成経過

この品種は「U—28」の原々種の保有が国内ではできないので、この品種にかえるべき本道中部以南の子実用として育種された。昭和23年に米国より自殖系統が導入され、旧農林省農事改良実験所において系統の組合せ能力の検定が行なわれた。その後北海道立農業試験場種芸部に引きつがれ、昭和26年より次の組合せ内容(W—23×W28)×(A—357×Oh—40B)により複交配の組合せが行なわれた。昭和28年より生産力の検定が行なわれ、昭和32年以降各地で地域適応性を検定した結果優良組合せと認めたので、昭和34年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 熟期は「ウイソコンシン12号」,「U—28」とほとんど同じで、本道では中生種に属するデント種の複交配種である。
2. 草丈はやや高く、生草重は「U—28」と同じ程度か、場所によつては多収である。
3. 穀穂の粒列は14~18行で大きい。
4. 子実は黄色である。

奨 励 範 囲

「U—28」に比べて多収なので、これに替えて本道中部以南の子実用として奨励する。

試験場名	抽出期		成熟期	生育 日数	成熟期 における		ha当り収量		子実		試験年次
	雄穂	雌穂			草丈	穂長	子実重	稈稈重	1立 重	千粒 重	
道立農試 芸部	月日 8. 8	月日 8.12	月日 10.1	日 138	cm 249	cm 16.3	kg 5,012	kg 4,340	g 695	g 245	昭和 年 29~33

(10) U—28

米歴ならびに育成経過

この品種はデント種に属する複交配種である。昭和24年北海道立農業試験場種芸部において、米国商社より毎年原々種である単交配の種子の提供をうけ、本場においては昭和25~27年の3ヶ年、各支場では昭和26~27年の2ヶ年にわたり特性を検定し、さらに昭和27年には各地で地域適応性を検定したものである。種芸部において育成しつつある複交配種が大量に増殖されるまでのつなぎとして昭和28年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 絹糸抽出期および成熟期は「複交1号」「複交2号」、「複交3号」および「ウイスコンシン12号」のいずれよりも早い。
2. 子実収量は「ロングフエロー」に比べて各地とも4~5割の増収を示している。しかし十勝および北見地方では「ロングフエロー」に比し生育日数が多くなるので、年によつて未完熟に終わる危険がある。

奨 励 範 囲

本道中部においては中生種に属し、子実用としては道中央部およびその以南に、エンシレージ用としては中部以北に奨励する。

試験場名	抽出期		成熟期	生育 日数	成熟期 における		ha当り収量		子実		試験年次
	雄穂	雌穂			草丈	穂長	子実重	稈稈重	1立 重	千粒 重	
道立農試 芸部	月日 8. 7	月日 8.13	月日 10. 3	日 139	cm 226	cm 15.0	kg 4,319	kg 3,710	g 716	g 259	昭和 年 29~33
十勝支場	8.12	8.16	10. 4	141	246	—	4,476	6,092	625	245	26~30
北見支場	8. 5	8.15	9.29	134	241	16.6	4,578	—	595	282	26~30
天北支場	—	8.27	10.21	145	191	19.4	3,550	—	565	200	28~29

VI 大 豆

(1) 白 千 石 (十育63号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和17年に、北海道立農業試験場十勝支場において、「裸大豆」を母とし、「早生黒千石」を父として人工交配を行ない、その後選抜固定を図り、昭和27年に「十育63号」として生産力検定試験を行なうとともに地方適否を確かめた結果、優良と認め、昭和29年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 開花期は「早生黒千石」と「十勝長葉」の中間に位し、成熟期は「十勝長葉」より7日内外おそく、「早生黒千石」より2～3日早い晩熟種である。
2. 生育がきわめて旺盛で茎はやや太く、長稈である。
3. 倒伏は「早生黒千石」程度で、「十勝長葉」より倒れやすいが、「茶小粒」より倒れにくい。
4. 子実は黄色、臍色は褐色で「十勝長葉」よりやや小さいが、「早生黒千石」より大きく、粗蛋白質含量がやや低いが、粗脂肪含量は中位である。
5. 子実収量は「十勝長葉」よりやや劣るが「早生黒千石」に比べていちじるしく多収である。
6. 脱穀後の茎収量は「早生黒千石」、「十勝長葉」より多く、牛馬に与えた場合は稈が柔かいので残食量は比較的少なく、飼料価値が高い。
7. 青刈収量は「茶小粒」、「十勝長葉」とはあまり差がないが、「早生黒千石」、「石狩白1号」よりまさる。

奨 励 範 囲

青刈収量および粗蛋白質生産量が多く、子実収量も多いので、十勝地方として晩熟種であるが、安全に採種ができるので、十勝地方およびこれに類似の地方の青刈大豆として奨励したい。

試験場名	開花始 月日	成熟期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		出 歩 合	試験年次
				草丈 cm	枝梗数 本	莢数 ヶ	子実重 kg	稈重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
十勝支場	8. 8	10.14	145	111.5	6.2	118	1,976	3,323	725	165	13.5	昭和 年 24～28

(2) 鈴 成 (十育66号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和23年、北海道立農業試験場十勝支場において、「十勝長葉」を母とし、「中生裸」を父として交配を行ない、それ以後選抜固定をつづけ育成したもので、昭和27年より生産力検定を行ない、昭和29年には「十育66号」という系統名で試験を行ない、昭和30年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 開花期は「大谷地2号」よりややおそいが、結莢期間が短かいので、成熟期は「大谷地2号」程度の早生種である。
2. 草丈はやや低く、耐倒伏性は比較的強い。
3. 蒴莢は密で3粒莢が多く、熟莢は濃黒褐色をていする。
4. 子実はやellow色、臍は褐色で大きさは「十勝長葉」よりやや小さい。
5. マメシクイガの被害が「大谷地2号」よりはるかに少なく、品質は上位である。
6. 子実の粗蛋白質ならびに粗脂肪含量は中位である。
7. 収量は「大谷地2号」より多く、耐冷性が比較的強い。

奨 励 範 囲

「鈴成」は熟期が早く、かつ多収なので、早中熟種栽培地帯向きの品種とし、一応十勝地方における「大谷地2号」、「十勝長葉」の配合用品種として奨励する。

試験場名	開花始 月日	成熟期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		出穂 歩合	試験年次
				草丈 cm	枝梗数 本	莢数 ヶ	子実重 kg	稈重 kg	1立 kg	千粒 g		
十勝支場	7.28	10. 2	134	62.4	6.5	73	1,916	1,699	737	171	16.5	昭和 27~33
北見支場	8. 2	9.29	129	62.7	4.1	71	1,315	1,384	726	158	16.3	29~33
天北支場	7.30	10. 6	138	50.8	3.9	62	1,598	1,364	741	180	15.8	29~33

(3) イ ス ズ (系83—B)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和23年に北海道立農業試験場十勝支場において、「十勝長葉」を母とし、「大谷地2号」を父として人工交配を行ない、雑種第3代以降北見支場で選抜固定をつづけ育成したもので、昭和28年には生産力検定試験に編入し、昭和29年より各地で地方適否試験を行ない、昭和32年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 開花期は「大谷地2号」より3～4日早く結実日数は2日位長い。
2. 成熟期は「大谷地2号」より1～2日早いと同じ位で中生種である。
3. 生育は旺盛、短秆で倒伏には強い。
4. 葉型は「十勝長葉」型で長楕円形である。
5. 着莢は密で3粒莢が多く、4粒莢もやや多い。1莢平均粒数は他の品種よりはるかに多い。莢は「大谷地2号」に類似し小型で褐色である。
6. 子実は黄白色で大きさは「大谷地2号」と「北見長葉」の中間よりやや小さいが、肥沃地では中間より大きくなる。脐は褐色、マメシクイガの被害は「大谷地2号」と「北見長葉」の中間で品質は良好である。
7. 子実収量は「大谷地2号」や「北見長葉」より多収で耐冷性に強い。

奨 励 範 囲

北海道東北部の如く、冷害にあいやすい地方および山間または秋季結霜の早い地帯の耐冷安全多収品種として栽培するのがよく、栽培の適地帯は網走支庁管内、上川の北部等東北部が主体となるが、さらに中央部の山間地帯にも適する。

試験場名	開花始 月日	成熟期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		出収 割合	試験年次
				草丈 cm	枝梗数 本	莢数 ヶ	子実重 kg	莢重 kg	1立 重 g	1千粒 重 g		
十勝支場	7.26	10. 3	137	63.0	6.9	62	2,081	1,953	739	224	9.5	昭和 29～33
北見支場	7.30	10. 2	133	70.3	5.0	56	2,019	1,737	674	205	16.7	28～33
天北支場	7.31	10. 6	138	55.8	5.1	51	1,770	1,660	744	200	14.0	29～33

(4) 北 見 白 (系50—A)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和23年に、北海道立農業試験場十勝支場において、「十勝長葉」を母とし、「大谷地2号」を父として人工交配を行ない第3代以降北見支場で選抜固定をつづけ育成したもので、昭和28年に生産力検定試験に編入し、昭和29年より各地で地方適否試験を行なった結果優良と認めたので、昭和31年3月に優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 開花期は「大谷地2号」よりやや早い、結莢日数が長いので成熟期は「大谷地2号」より2～3日おそい。
2. 生育は旺盛で科はやや短かく、耐倒伏性は強い。
3. 葉型は楕円形、着莢は密で2粒莢が多く褐色である。
4. 子実は黄白色をていし、大きさは「大谷地2号」と「北見長葉」の中間よりやや大きく、脐は褐色で良質である。
5. マメシクイガの被害は「大谷地2号」と「北見長葉」の中間より少なく、品質は「大谷地2号」より上位のときが多い。
6. 子実の粗蛋白ならびに粗脂肪含量は中位であるが、粗蛋白は「北見長葉」よりやや多い。
7. 子実収量は「大谷地2号」、「北見長葉」より多収で、耐冷性に強い。

奨 励 範 囲

栽培の適地帯は上川の北部、十勝、網走支庁管内等の北海道の東北部が主体となるが、さらに中央部の山麓地帯においても良好な収量をあげ得るものと思われる。

試験場名	開花始 月日	成熟期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		歩合	試験年次
				草丈 cm	枝梗数 本	莢数 ヶ	子実重 kg	莢重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
十勝支場	7.27	10.6	140	64.8	6.6	67	2,188	1,964	730	239	10.0	昭和 29～33
北見支場	8.1	10.8	139	72.1	4.4	61	2,195	1,839	722	225	14.9	28～33
天北支場	8.2	10.15	138	60.7	5.9	46	1,869	1,825	732	222	11.5	29～33

(5) カリカチ (大豆農林17号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和25年北海道立農業試験場十勝支場において「十勝長葉」を母とし、「上春在来」を父として人工交配を行ない、それ以来選抜固定を図り、昭和30年より生産力検定試験を行ない、昭和31年より各地で地方適否試験を行ない、昭和34年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 開花期は「大谷地2号」、「北見白」と同じである。
2. 成熟期は「北見白」並で「大谷地2号」よりわずかにおくれ、中熟種に属する。
3. 草丈は「十勝長葉」より高く、草姿および形態的特性は「大谷地2号」に類するが、初期生育は旺盛で茎葉はやや粗剛である。
4. 葉は楕円形で葉色は褐色を呈する。着莢はやや密で1莢粒数もわずかに多い。
5. 子実はやellowで脐色は黒褐、中粒種に属するが「大谷地2号」より小さく、「北見白」より大きい。
6. マメシンクイガの被害は「大谷地2号」よりわずかに少ない。
7. 子実の粗脂肪含量は「大谷地2号」よりやや高い傾向を示すが大差なく粗蛋白質含量はわずかに少ない。
8. 子実収量は「北見白」並で、小粒種の多収品種に比し遜色がない。

奨 励 範 囲

この品種は道南および極端な冷涼地を除いて全道一円に適する。

試験場名	開花始 月日	成熟期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		出喰 歩合	試験年次
				草丈 cm	枝極数 本	莢数 ヶ	子実重 kg	稈稈重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
十勝支場	7.26	10.4	137	78.3	7.1	65	2,248	2,180	735	269	8.4	昭和 年 30~33
北見支場	7.31	10.8	—	94.8	4.0	—	2,171	—	—	—	—	32~33
天北支場	7.31	10.8	—	72.9	4.8	—	2,085	—	—	—	—	32~33
国立農試 作物部	7.21	9.28	—	56.9	8.5	—	1,812	—	—	—	—	32~33

(6) ホツカイハダカ (大豆農林14号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和23年北海道立農業試験場十勝支場において、「十勝長葉」を母とし、「中生裸」を父として交配を行ない、それ以後選抜固定を続け育成したもので、昭和27年には「2701」の仮名称を附し、昭和30年には「十育77号」の系統名の下に試験を行ない、昭和33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 開花期および成熟期は「十勝裸」並の中熟種である。
2. 稈長は「十勝長葉」より短かいが「十勝裸」より長く、茎の太さは中位で耐倒伏性は比較的強い。
3. 葉は長楕円形でやや小さく、毛茸はほとんどない裸種で、花色は紫である。
4. 蒴莢はやや密、1蒴粒数はやや多く莢色は褐色を呈する。
5. 子実とは黄色、臍色は黒褐色、大きさは「十勝長葉」よりやや小さく「十勝裸」よりやや大きい小粒種で、品質は良好である。
6. マメシンクイガの被害は「十勝裸」並で少ない。耐冷性は「十勝裸」なみである。
7. 子実の粗蛋白質ならびに粗脂肪含量は中位である。
8. 子実収量は「大谷地2号」よりやや多く、「十勝裸」よりすぐれている。

奨 励 範 囲

「北海裸」は「十勝裸」に比べ強稈で、収量がまさるので、マメシンクイガの被害が多く、また茎葉徒長し倒伏しやすい地域、主として十勝内陸地帯に適する。裸種は一般に強風低温には弱いので、この品種も沿海地方、高冷地等には栽培を避けるべきである。

試験場名	開花始 月日	成熟期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		虫喰 歩合	試験年次
				草丈 cm	枝極数 本	莢数 ヶ	子実重 kg	稈重 kg	1立 重g	千粒 重g		
十勝支場	7.30	10. 6	140	70. 7	8.6	72	1,862	1,876	745	171	5.2	昭和 27~33
北見支場	8. 8	10.14	143	74. 0	7.0	70	2,017	1,280	713	171	2.2	32

(7)テンポクワセ (天育1号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和25年北海道農業試験場作物部において「紫花1号」を母とし「奥原1号」を父として人工交配を行ない、雑種第4代より北海道立農業試験場天北支場で選抜固定を図り、昭和30年生産力検定予備試験を行ない、昭和31年には生産力検定試験を行なうとともに各地においても地方適否を検定し、昭和34年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 開花始ならびに成熟期は「奥原1号」と同程度かやや早い、極早生種である。
2. 葉は楕円形で大きさは「大谷地2号」と同程度である。
3. 着莢は中位で不稔が少なく、莢色は褐色を呈する。
4. 子実は黄白色、脐色は暗褐色、粒形は偏球形で、大きさは「奥原1号」より小さく、「北見白」と同じ位である。
5. マメシクイガの被害は「奥原1号」よりやや少さく、品質は中位である。
6. 子実収量は「奥原1号」より多収で、「大谷地2号」と大差ないが、冷害年にははるかに両品種よりまさる。

奨 励 範 囲

この品種は耐冷性強く、極早生なので無霜期間が短かく、冷害に遭遇しやすい地方に適する。

試験場名	開花始 月日	成熟期 月日	生育 日数 日	成熟期における			ha当り収量		子 実		出 歩 歩合	試験年次
				草丈 cm	枝梗数 本	莢数 ヶ	子実重 kg	莢重 kg	1立 重	千粒 重		
本 場	7.11	9.12	—	45.7	7.3	56	1,577	—	—	187	—	昭和 年 31~33
十勝支場	7.24	9.27	—	80.8	6.8	59	1,789	—	—	222	6.8	31~33
北見支場	7.27	9.25	—	82.3	7.1	60	2,223	—	—	204	16.7	31~33
根室支場	8. 4	9.30	—	35.1	2.9	26	927	—	—	201	2.7	33
天北支場	7.21	9.25	127	61.4	4.1	53	1,830	1,540	—	222	18.0	30~33

(8) 早 生 緑

来歴ならびに育成経過

昭和26年に北海道立農業試験場北見支場で蒐集した大豆品種中、天塩産のものに緑色大粒種で、有望と思われる品種があつたので、系統選抜試験に入れ、特性ならびに生産力検定を行なうとともに、管内主要地帯で委託試験を行ない、収量も検定したところ、「吉岡大粒」に比べ熟期早く、成績が良好なので、昭和29年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 開花始は「吉岡大粒」「大谷地2号」と大差ないが、成熟期は「吉岡大粒」より1週間内外早く、「大谷地2号」よりやや早い。
2. 草丈は「吉岡大粒」よりやや低く、「大谷地2号」より20cm くらい低い、莢つきは密である。
3. 子実の表皮は淡緑色で、臍は黒く、臍部附近がやや濃緑を呈するが、「吉岡大粒」のように濃淡はいちぢるしくない。粒形はやや大粒、やや扁球で虫喰被害はやや多いが、品質は良好である。
4. 収量は「吉岡大粒」より3割内外多く、「大谷地2号」と大差がない。

奨 励 範 囲

この品種は北見地方、ならびに冷涼地帯における子実用大豆として「吉岡大粒」に代つて奨励したい。

試験場名	開花始	成熟期	生育日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		虫喰歩合	試験年次
				草丈	枝梗数	莢数	子実重	稈重	1立千粒重	1粒重		
北見支場	月日 7.30	月日 9.29	日 129	cm 57.4	本 5.9	ヶ 57	kg 1,935	kg 1,953	g 715	g 298	% 21.4	昭和 年 26~32 次30, 31

(9) 坂 本 早 生

来歴ならびに育成経過

この品種は亀田郡大野村の坂本重太郎氏が永年栽培していたもので、それ以前は府県からの移入品種と考えられる。北海道立農業試験場渡島支場では

坂本氏の了解を得一般農家に栽培させるために坂本氏の姓を附し、昭和29年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. やや小粒であるが薄緑の地に黒のクラカケがあり、食味は良好である。
2. 草丈は短かく 20cm 程度で、3粒莢も多く、分枝に蒴莢が多いので枝のまま食膳にのせるのによい。
3. 生食適期はきわめて早い。

栽 培 適 地

早生であるから適地の範囲は広いが、都市近郊あるいは道南地方の蔬菜地帯に栽培するとよい。

試 験 場 名	枝 豆 適 期	枝 豆 草 丈	5 株 莢 数	試 験 年 次
渡 島 支 場	月日 8. 7	cm 20.3	ヶ 122	昭和26～28年

VII 小 豆

(1) 宝 小 豆

系 歴 ならびに 育 成 経 過

この品種は北海道立農業試験場十勝支場において、「小豆W45」として保存栽培されていたもので、特性調査の結果有望と認めたので、昭和34年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 草丈は中位、熟莢は褐色を呈しやや彎曲する。
2. 開花始は「茶殻早生」および「早生大粒1号」とほぼ同じで、「円葉1号」に比べ5日位早く、成熟期は「茶殻早生」より8日位おそいが、「早生大粒1号」より5日位、「円葉1号」より15日位早い早熟種で、結莢期間が比較的短い。
3. 子実の形状は円筒形で大きさは中位、色沢は赤色、品質は「円葉1号」よりやや劣るが「茶殻早生」よりまさり、早生種としては品質がよい。

4. 収量は「茶汲早生」より2割,「円葉1号」,「早生大粒1号」に比べ1割位多い。

5. 耐倒伏性が強く, 冷害には比較的安全である。

奨励範囲

十勝およびこれに類似の地方に適し, また本道中部の肥沃地ならびに多肥栽培に適すると考えられる。

試験場名	開花始	成熟期	生育日数	成熟期における			ha当り収量		子実		試験年次
				草丈	枝梗数	莢数	子実重	稈稈重	1立重	千粒重	
十勝支場	月日 8. 4	月日 10. 1	日 131	cm 47.1	本 2.5	ヶ 35	kg 2,662	kg 1,524	g 818	g 151	昭和 年 31~33
北見支場	月日 8. 4	月日 10. 2	日 129	cm 57.0	本 3.7	ヶ 43	kg 3,409	kg 2,163	g 803	g 149	32~33

VII 菜 豆

(1) 大 正 金 時

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和10年中川郡幕別町の中村宇太郎氏が「金時」として帯広市の種苗商から購入したものの中から硬莢種1株を発見し,それが早熟で大粒なことから採種増殖をつづけた。北海道立農業試験場十勝支場では十勝六郡農会を通じて入手し「鶴金時(十支第5990号)」として昭和13年から同17年まで5ヶ年間試験を行なつた。中村氏が農協に出荷したものの中から,昭和16年帯広市大正町上似平の水野利三郎氏が晩霜の被害による再播用種子として購入して播種増殖し,それが大正町全体に漸次普及し,さらに昭和28年頃から他町村にも普及され,昭和30年「大正金時」の銘柄設定とともに十勝管内に広く栽培されるにいたつた。十勝支場では昭和29年より再び試験を行ない,昭和32年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 矮性で草丈は「金時」類中最も低く,葉,花,莢等はほぼ「手無鶴金時」に類似するが,成熟前の莢に縫線のほぼ中央部より莢先端に沿つて極淡紅色の斑紋を生ずる。

2. 開花始は「紅金時」とほぼ同じで、「手無鶴金時」に比べ3日内外早く成熟期は「紅金時」より9日内外、「手無鶴金時」より13日内外早い早熟種である。
3. 子実の形状は「紅金時」に似ているが大粒、色沢は赤紫色に淡い濃淡の斑紋あり、「金時」にやや類似する。
4. 収量は「常富長鶉」、「大手亡」等とほとんど差はないが、「金時」類中では最も多い。
5. 子実の色沢は他の「金時」類に比べ褪せしやすい欠点を持つているが、菜豆炭疽病に対する抵抗性はやや強く、菜豆角斑病には中位の抵抗性を示す。
6. 食味は佳良で「金時」類中最もまさり、「中長鶉」よりもまさる。

奨励範囲

地力の高い土地であれば比較的無霜期間の短い土地にも適し、「手無鶴金時」「紅金時」等に配合して栽培すべき品種である。

試験場名	開花始	成熟期	生育日数	成熟期における			ha当り収量		子実		試験年次
				草丈	枝桠数	莢数	子実重	摘得重	1立重	千粒重	
	月日	月日	日	cm	本	ヶ	kg	kg	g	g	昭和年
十勝支場	7.14	9. 3	103	42.4	5.3	14	1,920	1,447	774	620	30~33
北見支場	7.17	9.10	105	44.0	5.6	15	2,215	1,667	786	714	31~33
根室支場	8. 2	9.23	121	25.8	1.3	5	822	545	779	653	31~32
天北支場	7.14	9. 8	106	38.4	—	14	2,828	1,565	807	731	32~33

(2) 白金時

来歴ならびに育成経過

この品種の来歴は明らかでないが、十勝地方では古くから栽培され、また近年北見地方にも栽培されているもので、それが近年需要の増加とともに品質の統一平均化が強く望まれている。北海道立農業試験場十勝支場では、十勝管内各地より蒐集し比較試験を行なった結果、昭和29年芽室町農業協同組合より取寄せたこの品種を優良と認め、昭和33年3月優良品種に決定した。

特性概要

1. 葉、莢、草姿等の特性はほぼ「紅金時」に類似し、硬莢矮性で花は白色

を呈する。

2. 開花始および熟期ともに「紅金時」とほとんど同じである。
3. 子実の形状はやや長楕円形を呈し、大きさは「紅金時」とほぼ同大、粒色は白色であるがやや鉛色を帯びた網状の斑紋が子実の全面に拡がつており、臍部の周囲に淡黄色の斑紋がある。
4. 収量は「紅金時」とほとんど同程度である。
5. 菜豆炭疽病の被害少なく、菜豆角斑病にも比較的抵抗性を有する。また白色種なるため成熟期から収穫乾燥中に雨湿の害を被りやすい。
6. 子実はやや粘質で品質よく、煮豆、製菓原料あるいは製飴用等に多く用いられ、特に最近「大福」と混合してキントンとしても用いられる。

奨励範囲

「紅金時」の栽培可能な地方には栽培でき、白色種なるため成熟期から収穫乾燥中の雨湿には充分注意しなければならない。また極端な冷害地の栽培は避けるべきである。

試験場名	開花始	成熟期	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈	枝極数	莢数	子実重	稿稈重	1立重	千粒重	
	月日	月日	日	cm	本	ヶ	kg	kg	g	g	昭和 年
十勝支場	7.16	9.11	112	60.5	6.2	17	1,900	1,635	817	452	30~33
北見支場	7.19	9.22	117	49.0	5.4	18	2,473	1,948	862	410	31~33
天北支場	7.17	9.24	122	47.3	—	17	2,430	1,995	858	530	32~33

(3) 大 正 白 金 時

来歴ならびに育成経過

この品種は帯広市大正町の農家、道端貞雄氏が、昭和26年に「大正金時」の中から白色同粒形のを発見し増殖したもので、白色大粒良質なところから、昭和32年より大正町農協が採種増殖を行ない、その後大正町を中心として急激にその栽培面積が増加している。

北海道立農業試験場十勝支場では、昭和33年より試験を行なった結果優良と認めたので、昭和35年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 葉、莢、草姿等の特性は「大正金時」に酷似し、ほとんど見分けはつかないが、花色は白色、嫩莖色は緑色を呈する。
2. 開花始および成熟期は「大正金時」とほとんど同じであるが、時によって成熟期は1日位おくれることもある。
3. 子実の形状はやや長い楕円形を呈し、「大正金時」に類似するが、大きさは「大正金時」よりやや小粒、「白金時」よりはるかに大粒である。粒色は白色であるが、ごくわずか「白金時」のような餡色網斑を有し、臍部はごく淡い黄色の環をもつ。
4. 子実収量は「白金時」と同程度であるが、「大正金時」よりやや劣る。
5. 子実はやや粘質で食味は良好である。
6. 成熟期から収穫乾燥期にかけて雨湿の害をうけやすいが、菜豆炭疽病の被害はほとんど認められない。

奨 励 範 囲

この品種の栽培可能範囲は「大正金時」に準じ、地力の高い土地であれば比較的無霜期間の短い地方にも適し、その市場性からみて、「大正金時」、「長鶉」、「大手亡」などに配合して栽培すべき品種である。

試験場名	開花始	成熟期	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈	枝梗数	莢数	子実重	莢重	1立重	千粒重	
十勝支場	月日 7.13	月日 9. 1	日 100	cm 41.3	本 5.0	ヶ 15	kg 1,918	kg 1,604	g 815	g 598	昭和 年 33~34
北見支場	7.13	9. 7	—	40.1	8.9	17	2,244	1,710	817	699	34

IX 豌 豆

(1) 改良青手無 (札幌青手無 1号—40)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和28年北海道立農業試験場十勝支場において、「札幌青手無 1号」より純系分離を行なつて選抜したもので、昭和30年より「札幌青手無 1号—40」の系統名の下に試験を行ない、昭和33年3月優良品種に決定し

た。

特 性 概 要

1. 「改良青手無」は晩熟種であるが、「札幌青手無1号」に比べて開花は1～2日、成熟期は3～4日早い。
2. 草丈は「札幌青手無1号」と同程度で半蔓性種である。分枝数はやや少ない。葉は「札幌青手無1号」より白粉多くやや淡緑色を呈する。着莢は極めて多い。
3. 子実は大粒であるが「札幌青手無1号」より僅かに小さく、種皮の色はやや淡緑色である。収穫当時の雨湿による種皮の変色腐敗粒の発生が比較的少ない。
4. 子実収量は極めて多く、密播、多肥、晩播等の栽培条件の場合には特に「札幌青手無1号」をはるかに凌駕する。

奨 励 範 囲

この品種は熟期が早く極めて多収で、不良条件の下でも比較的減収が少ない上、変質粒、腐敗粒の発生も概して少ないので、従来の青豌豆栽培地帯において、この品種におきかえて奨励したい。

試験場名	開花始 月日	成熟期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈 cm	枝梗数 本	莢数 ヶ	子実重 kg	稿稈重 kg	1立重 g	千粒重 g	
十勝支場	6.25	8.10	110	116.6	3.9	30	1,927	2,960	723	336	昭和 年
北見支場	6.27	8.10	81	88.0	4.0	51	1,493	1,990	678	280	30～32

X 馬 鈴 薯

(1) チ ト セ (馬鈴薯農林4号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和20年北海道農業試験場島松馬鈴薯試験地において「男爵薯」を母とし、「本育 393号」を父として交配されたものの中の1系統であつて、旧系統名を「北海3号」とし、昭和26年より各地で地方適否試験を行なつた結果、その優秀性を認められ、昭和28年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 萌芽が早く初期生育が旺盛であつて、薯の着生や肥大も早いので、早掘用の品種として利用価値が高い。
2. 開花することはまれである。葉はやや小形で、その色は淡く、滑かで柔軟である。叢性は開で、茎の色は「男爵薯」よりやや濃い。
3. 薯は表皮淡黄色、球形である。目は深い。匍枝が長く薯つきはやや疎である。
4. 薯なりが多く大粒は少ないが中粒多く、薯数型に属し、収量は「男爵薯」より多い。
5. 澱粉価は「男爵薯」より0.5%ぐらい高い。
6. 食味は「男爵薯」と大差ないが、やや劣ることがある。
7. 馬鈴薯疫病および夏疫病には弱い。輪腐病、軟腐病にも弱い。ウイルスには比較的強く、特にエソモザイクや一般モザイク病には犯されにくい。またXウイルスにもやや強いが、葉捲病には弱い。
8. 2次生長をおこしやすい。

奨 励 範 囲

比較的温暖な気候に適するが、その適応する地域は広範囲にわたり、「男爵薯」栽培地域全般に適応しうる。

試験場名	開花始	茎葉生育 枯涸期	生育 最盛期 日数	ha 当 り 収 量					澱粉 収得量	澱粉 価	試験 年次	
				草丈 cm	茎数 本	大 kg	中 kg	小 kg				計 kg
波 島 支 場	7. 1	8. 22	118	54.7	4.7	10,990	15,180	6,320	32,490	4,380	13.4	昭和 25~30
十 勝 支 場	7.13	8.14	96	53.6	6.0	2,418	10,926	8,730	22,074	2,913	14.2	26~31
北 見 支 場	7.17	8.29	111	54.7	4.3	5,050	14,100	7,240	26,390	3,831	14.4	27~31
天 北 支 場	7.14	8.27	115	41.4	4.3	—	—	—	25,778	3,173	14.1	29~33
国立農試 美瑛研究室	7.10	8.21	108	44.6	4.0	331	4,238	11,081	15,650	2,006	12.7	29~30
国立農試 島松研究室	7. 8	8.17	—	45.0	3.8	7,273	8,889	3,637	19,799	2,772	15.0	24~27

* 開花期

(2) オオジロ (馬鈴薯農林5号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和21年、北海道農業試験場島松馬鈴薯試験地において「男爵薯」を母とし「馬鈴薯農林1号」を父として交配されたものの中より選抜された1系統であつて、旧系統名を「北海9号」とし、昭和27年より各地で地方適否試験を行なつた結果、昭和29年2月優良品種に決定され、「オオジロ」と命名した。

特 性 概 要

1. 「男爵薯」より2, 3日おそい早生種で、萌芽が早く初期生育も比較的早い。薯の着生や肥大が早いので早掘用としても利用される。
2. 花は濃紫色を呈しその数は多い。花梗が抽出する。
3. 薯は表皮淡黄白で扁円形を呈し、「馬鈴薯農林1号」に似ている。収穫時の皮色はむしろ純白にちかい。目は少なく、比較的浅い。
4. 薯着は極めて密で大粒が多く粒ぞろいがよいのみならず男爵薯が少ない。薯重型に属し、収量は「男爵薯」より1割内外多い。
5. 澱粉価は「チトセ」, 「男爵薯」より高い。
6. 食味はやや淡白であるが雑味がなく良好である。煮沸後の肉色は純白に近い。
7. 馬鈴薯疫病には弱いが, 「男爵薯」や「チトセ」よりもその被害のうけ方がおそい。Xウイルスやエソモザイク病におかされやすい。青枯病にも弱い。
8. 2次生長は少ない。

奨 励 範 囲

「男爵薯」に似てその適応範囲は広く、道内一円に適する。

試験場名	開花始	茎葉枯凋期	生育日数	生育最盛期		ha 当り収量					澱粉収得量	澱粉価	試験年次
				草丈	茎数	大	中	小	計				
	月日	月日	日	cm	本	kg	kg	kg	kg	kg	%		
波島支場	6.29	8.21	118	51.0	4.1	9,183	15,710	5,938	30,976	4,820	15.6	昭和28~33	
十勝支場	7. 9	8.17	98	50.0	5.0	5,343	12,625	7,932	25,900	3,652	15.1	27~33	

試験場名	開花始	茎 葉		生 育		ha 当 り 収 量					澱 粉 収 得 量	澱 粉 価 値	試験 年次
		枯 凋 期	日 数	草 丈	茎 数	大	中	小	計	澱 粉 収 得 量			
	月 日	月 日	日	cm	本	kg	kg	kg	kg	kg	%		
北見支場	7. 9	9. 5	118	54.9	4.4	5,580	11,940	6,220	25,140	3,949	18.2		昭和27~33
根室支場	7.24	9. 5	—	42.0	4.1	1,687	10,041	6,481	18,209	2,942	16.1		29~33
宗谷支場	7.19	8.25	110	32.4	4.1	1,086	9,012	8,097	18,395	2,430	14.1		30~33
天北支場	7. 9	8.28	117	47.9	3.6	—	—	—	23,914	3,366	15.1		29~33
国立農試 美唄研究室	7. 2	8.18	105	45.0	5.0	718	8,613	10,035	19,366	2,910	14.9		28~32
国立農試 島松研究室	7. 6	8.22	—	40.0	4.3	6,040	10,351	4,529	20,920	3,075	15.7		29~33

* 開花期

(3) 根 室 紅 (島系 187号)

来歴ならびに育成経過

この品種は北海道農業試験場島松馬鈴薯試験地において、「本育 393号」を母とし、「バルナシア」を父として人工交配を行ない、育成された系統を北海道立農業試験場根室支場で昭和21年に種薯の分譲をうけ、「島系 187号」の系統名で生産力検定試験行なうとともに地方適応性を検定したところ、多収、澱粉含有率も高いので昭和28年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 草丈は高く茎数は少ない。草勢は強い。
2. 茎葉枯凋期は「紅丸」よりややおそいが、一般品種としては中位である。
3. 薯は扁楕円形で、色は赤く目は浅い。食味は良好である。
4. 薯の収量は「馬鈴薯農林1号」より劣るが「紅丸」より多く、澱粉含有率はやや高い。
5. 馬鈴薯疫病には「紅丸」と同程度で、「馬鈴薯農林1号」よりやや弱い。湿腐病には強い。2次生長をしやすい欠点がある。

奨 励 範 囲

食用兼澱粉用として「紅丸」に代わり根釧の内陸地方に栽培するのに適する。

試験場名	開花始	茎葉生育		生育最盛期		ha 当り 収 量					澱粉 収得量	澱粉 価	試験 年次
		枯凋期	日数	草丈	茎数	大	中	小	計				
	月日	月日	日	cm	本	kg	kg	kg	kg	kg	%		
十勝支場	7.12	9. 3	113	53.5	5.0	3,598	15,475	10,088	29,161	4,053	14.9	昭和26~32	
北見支場	7.12	9.17	135	69.4	4.3	4,290	18,100	7,480	29,870	4,434	14.8	27~33	
根室支場	7.20	9.13	—	64.1	4.7	—	—	—	20,634	3,232	14.7	21~26	
天北支場	7.11	9. 8	127	66.9	3.9	—	—	—	30,606	4,343	15.1	27~33	
宗谷支場	7.20	9. 7	125	49.1	3.8	403	11,514	12,539	24,455	3,049	13.3	30~32	
国立農試 島松研究室	7. 8	9.21	—	56.0	3.3	4,648	14,345	6,096	25,089	3,638	15.5	22~24 31	

* 開花期

(4) ケネベック (馬鈴薯導入1号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和15年以来メリーランドで、「B 127」を母とし、「96~56」を父として交配育成した野生種の血液をつぐ種間雑種で、当初は「B70—5」の系統名で持ちこまれたが、昭和23年北米において「ケンネベック」と命名された。北海道では昭和23年農林省札幌農事改良実験所島松試験地で試作が開始された。北海道立農業試験場根室支場においては昭和26年、同天北支場では同27年に島松試験地から種薯の配付をうけ、同年以降地方適応性検定試験を行ない、昭和29年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 開花期、茎葉枯凋期は「紅丸」「馬鈴薯農林1号」に比べて1週間内外おそく、晩熟種に属する。
2. 草丈は「紅丸」と「馬鈴薯農林1号」の中間で、茎は緑色で太く、叢性はやや開き、小葉は大きく草勢は強、花色は白で花数は少ない。
3. 薯は淡黄色で扁長卵形、目は浅くその数は中位である。薯の着生はやや疎であるが、大薯の割合がきわめて多く、粒ぞろいもよい。
4. 薯の収量は多く、馬鈴薯疫病に対する抵抗性は極めて強いが、葉捲病に罹病しやすい傾向がある。

奨 励 範 囲

馬鈴薯疫病多発地帯の根釧、天北地帯の安全確収品種として奨励する。

試験場名	開花始	茎葉生育		生育最盛期		ha 当り 収 量					澱粉 収得量	澱粉 価	試験 年次
		枯凋期	日数	草丈	茎数	大	中	小	計				
渡島支場	7. 8	9.11	139	69.1	3.5	26,290	12,140	5,830	44,260	6,035	13.6	昭和28	
十勝支場	7.16	9. 6	120	57.8	5.0	16,244	13,325	3,847	33,416	4,545	14.6	27~32	
北見支場	7.19	9.18	131	61.7	3.2	12,880	14,320	3,330	30,760	4,204	13.6	29~32	
根室支場	7.29	10. 1	—	70.0	4.6	10,565	13,934	4,749	29,248	4,667	16.3	27~32	
宗谷支場	7.24	9.18	135	44.3	2.5	9,962	10,601	2,506	23,068	2,883	13.5	30~32	
天北支場	7.20	9.17	136	58.6	3.4	—	—	—	32,556	4,223	14.3	27~33	
国立農試 美瑛研究室	7.13	9.14	133	49.4	4.0	4,603	11,663	6,376	22,642	3,202	14.1	29~32	
国立農試 島松研究室	7.17	9.18	—	62.0	2.7	14,929	6,015	1,114	22,058	2,823	13.8	29~32	

* 開花期

(5) ヨウラク (馬鈴薯農林8号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和23年に農林省札幌農事改良実験所品松馬鈴薯試験地において「41089—8」を母とし、「馬鈴薯農林1号」を父として交配され、実生養成以降選抜も加えられてきたものである。この母親である「41089—8」は次に示すとおり野生種 *Solanum dimissum* に栽培種を戻し交配した種間雑種である。

$$41089-8 \leftarrow \begin{cases} \text{母} & 40133 \\ \text{父} & S38248-12 \end{cases} \leftarrow \begin{cases} \text{母} & S. dimissum \\ \text{父} & 3702-125 \end{cases}$$

(シンパルスアルマの自殖系統)

昭和31年より「北海17号」の系統名の下に各地で試験を行ない、昭和33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 極晩生種で「男爵薯」より40~50日、「馬鈴薯農林1号」や「紅丸」よりも20~40日余もおそく、ところによつては降霜の候まで青いことがある。
2. 澱粉含量は「馬鈴薯農林1号」より3~4%高く、歩留りのよい豊産性澱粉原料用種として好適している。
3. 薯は球形で大きく、表皮赤く目の部分が淡色である。この色は曝光によ

つて漸次紫色に变じ、ついには紫褐色になつてしまうが、この変色は一般種間雑種の若い世代のもの傾向である。目は深くその数は比較的多い。薯の数多く、中大粒が多い。薯着は比較的疎である。

4. 生性はよくまとまり、茎太く数少なく、分枝が多いが、茎は徒長せず倒伏に比較的強い。
5. 葉は小さく葉面が皺状を呈し、葉数多く密生する。花は小さく淡紫色であり、裏面の方が濃い。開花期間が長く花数も多い。
6. 疫病には強いが最近この品種を犯す新しい疫病が発生し始めたので、防除にあたつては充分注意せねばならない。

奨励範囲

この品種はおそくまで葉が青く、収穫適期の判定が困難な場合があるので、一応道央方面で9月下旬～10月上旬、道北および道東方面では10月上旬～中旬を目途として栽培するべきである。

試験場名	開花始	茎葉生育		生育最盛期		ha 当り 収 量					澱粉 収得量	澱粉 価	試験 年次
		枯渇期	日数	草丈	茎数	大	中	小	計	澱粉 収得量			
渡島支場	月日 7. 1	月日 9.26	日 149	cm 73.5	本 5.7	kg 5,850	kg 17,120	kg 9,375	kg 32,345	kg 5,775	% 17.9	% 32	昭和年 32～33
十勝支場	7. 9	9.30	141	52.8	4.0	13,078	17,956	6,963	37,997	7,257	20.1	31	31～33
北見支場	7. 7	10.11	153	70.4	4.3	7,020	16,010	10,710	33,730	6,849	20.2	32	32～33
根室支場	7.22	10.11	—	73.0	4.9	9,919	11,975	8,543	26,437	5,286	20.5	30	30～33
天北支場	7. 8	10. 1	151	72.6	2.9	—	—	—	34,480	6,440	20.0	31	31～33
宗谷支場	7.18	10. 8	153	53.0	3.0	4,951	12,941	7,146	25,038	4,236	17.9	31	31～33
国立農試 美唄研究室	7. 3	9.21	139	64.1	3.0	3,794	13,760	8,933	26,487	5,118	19.4	31	31～33
国立農試 島松研究室	7. 7	10.3	—	77.0	3.7	12,940	11,254	3,373	27,571	4,852	18.6	30	30～33

* 開花期

(6) ニ セ コ (馬鈴薯農林9号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和23年旧農林省札幌農事改良実験所島松試験地において、「馬鈴薯農林1号」を母とし、「ミラビリス」を父として人工交配し、昭和25年

に実生養成されたものである。その後選抜を加え、昭和30年に「島系 269 号」となり、昭和31年には「北海15号」となつて、広くその適応性を検定した結果優良なことが認められたので、昭和34年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 熟期は「男爵薯」より約1ヶ月、「紅丸」、「馬鈴薯農林1号」より4、5日おそい晩生種で、道東、道北地方ではさらにおくれる傾向がある。
2. 草丈はやや低く、徒長することはない。茎は太くなく茎数も多くない。茎に極淡い赤色の部分的着色がある。小葉は小さく葉面粗で、葉色は比較的濃い。
3. 花は小さく、色は極淡紫で白地にちかく、先白である。花数は少ない。
4. 薯は長卵形にちかく基部が細く彎曲することがある。中大粒で表皮は滑、鮮紅色で目の部分は濃赤紫色を帯びている。目は浅く少ない。肉色は白である。
5. 食味は良好で粉質である。
6. 「紅丸」、「馬鈴薯農林1号」に比べて1割内外増収する。
7. 澱粉含有率は「紅丸」や「馬鈴薯農林1号」などよりやや高い。
8. XおよびYバイラスには弱く、モザイックと、エソモザイック病の発生が多い。湿腐病にも弱い、黒痣病や瘡癰病にはやや強い傾向がある。

奨 励 範 囲

北海道内の澱粉原料用晩生種として奨励し、中晩生の「紅丸」や「馬鈴薯農林1号」と、極晩生の「ヨウラク」との中間品種に利用する。後志、宗谷管内およびこれに類似する天北および上川、網走、十勝地方の一部などに奨励する。

試験場名	開花始	茎葉生育		生育最盛期		ha 当 り 収 量					澱粉価	試験年次
		枯凋期	日数	草丈	茎数	大	中	小	計	澱粉 収得量		
	月日	月日	日	cm	本	kg	kg	kg	kg	kg	%	昭和年
渡島支場	7. 5	9. 9	132	61.4	4.6	5,210	18,370	9,270	32,850	5,150	15.7	30~33
十勝支場	7.15	9.12	124	55.7	5.0	4,813	17,169	11,272	33,254	4,888	15.7	30~33
北見支場	7.16	9.30	140	49.3	4.7	8,160	18,120	7,280	33,560	5,768	17.2	31~33

試験場名	開花始	茎葉 枯凋期	生育 日数	生育 最盛期		ha 当り 収 量					澱粉 価	試験 年次
				草丈 cm	茎数 本	大	中	小	計	澱粉 取得量		
根室支場	月日 7.30	月日 9.20	日 —	59.0	5.6	3,607	10,575	8,600	22,782	3,745	18.0	昭和年 30~33
天北支場	7.16	9.16	136	55.5	3.9	—	—	—	33,086	5,140	16.8	31~33
宗谷支場	7.21	9.15	131	41.4	4.1	2,197	12,449	11,753	26,399	3,697	15.7	31~33
国立農試 島松研究室	7.12*	9.20	—	53.0	3.8	9,160	13,879	4,441	17,480	4,204	16.3	29~33

* 開花期

(7) リ シ リ (馬鈴薯農林10号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和23年に旧農林省札幌農事改良実験所島松試験地において、「41089—8」を母とし、「馬鈴薯農林1号」を父として人工交配を行ない育成したもので、昭和31年から「北海20号」の系統名で各試験機関において生産力検定を行なうとともに、地方適否を検定したもので、昭和35年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 開張型に繁茂し、草丈は「ヨウラク」に比べてやや長く、茎数は同程度で、肥沃地では倒伏することもある。
2. 薯は球形で目が深く、表皮色は白であるが部分的に淡紫で芽数は少ない。
3. 着薯は疎でやや深く地中にのびる性質を有する。着薯数は「馬鈴薯農林1号」、「ヨウラク」に比べて少ないが、中、大粒が多くことに肩薯や腐敗薯が極めて少なく、粒揃いはよい。
4. 熟期は極晩生型であるが、秋季湿润な気象状態でも腐敗薯は少なく、湿害に対しても強い。
5. 粉質で食味は良好である。
6. 澱粉含有率は「ヨウラク」よりはやや低いが「馬鈴薯農林1号」に比べて3%位高く、薯収量が多いので、澱粉取得量はややまさる。
7. 馬鈴薯疫病には「馬鈴薯農林1号」や「ヨウラク」より強く、萎縮病は

「ヨウラク」より少ない。

奨励範囲

以上の特性からみて、中晩生種の「馬鈴薯農林1号」、「ニセコ」、「紅丸」と適宜組合せて栽培し、超晩生種として利用する。

試験場名	開花始 月日	茎葉 枯凋期 月日	生育 日数 日	生育最盛期		ha当り収量		澱粉 率 %	試験年次
				草丈 cm	茎数 本	上薯重 kg	澱粉 収得量 kg		
上川支場	—	10. 3	—	—	—	35,180	6,410	18.9	昭和 31~34
十勝支場	7. 9	10. 1	—	64.3	4	38,110	6,670	18.5	31~34
北見支場	7.11	10. 1	—	75.0	4	31,850	5,920	18.6	31~34
根室支場	—	10. 4	—	—	—	25,580	4,310	18.2	31~34
天北支場	—	9.23	—	—	—	33,400	5,740	17.7	31~34
宗谷支場	7.25	10. 9	159	60.6	4	31,490	5,440	18.3	31~34
国立農試 島松研究室	7. 8	10. 3	—	83.0	3.8	29,340	4,841	17.5	31~34
同 美唄研究室	—	—	—	—	—	28,460	5,363	19.6	31~33
同 紋別研究室	—	9.19	—	—	—	26,440	4,890	18.4	31~34

* 開花期

XI 亜 麻

(1) あおやぎ (本系53号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和18年本場において「3633—25—1—9—4」を母とし、「本系23号」を父として人工交配を行ない、昭和21年にいたるまで集団栽培をつづけ、同年以降選抜固定を図り、昭和26年に「本系53号」の系統名をつけ、その後の系統育成を行うとともに各試験機関においても生産力検定を行ない、昭和30年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 開花および成熟期は「サギノ—1号」より1週間内外おそく、「雲龍」よりも2日ほどおくれ、最も晩熟である。
2. 草丈は高く、有効茎長も長い。花の色は淡紫色である。
3. 子実の色は灰褐色で、千粒重量は「サギノ—1号」より重く、「雲龍」より軽い。

4. 子実の粗脂肪含有率は「サギノー1号」よりやや高く、「雲龍」より低い。
5. 亜麻銹病に対する抵抗性は「雲龍」と同様に強く、亜麻立枯病に対しては従来の品種のいずれよりも強い。稚苗時の耐寒性も強い。
6. 倒伏に対しては「雲龍」より弱く、「サギノー1号」より強い。
7. 繊維の歩留りおよび品質は「サギノー1号」程度である。
8. 乾茎収量は多収である。

奨励範囲

亜麻栽培地帯であればどこでも栽培されるが、成熟期がおくれるので、収穫期に雨期の長びく地帯にはさけるべきである。

試験場名	開花始 月日	収穫期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子実		繊維 歩留	試験 年次
				草丈 cm	茎長 cm	30cm間 茎本	子実重 kg	乾茎重 kg	1立 重g	千粒 重g		
十勝支場	7. 6	8. 6	103	103.5	92.2	—	539	5,775	—	4.44	23.79	昭和28~33
北見支場	7. 8	8. 6	95	94.8	—	137	580	5,018	—	3.94	23.40	26~33
天北支場	7. 4	8. 4	98	86.4	—	195	744	5,432	638	4.60	—	32
国立農試 作物部	7. 9	8. 3	97	102.0	82.0	—	661	6,955	—	4.25	17.70	26~29

(2) ウ イ ー ラ

来歴ならびに育成経過

この品種は1938年「コンカレント」と「ハーキュレス」(Concurrent×Hercules)の組合せから育成され、1951年オランダの優良品種に登録されたものである。北海道には昭和29年農林省振興局を通じてオランダから輸入され、本場および十勝、北見の両支場で品種比較が行なわれ、昭和32年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

この品種に対してオランダにおける特性の評価は茎および子実収量高く、多窒素栽培に耐え、茎は強韌でかつ亜麻銹病の抵抗性はかなり強いとされている。北海道における特性は次のとおりである。

1. 稚苗の色は「サギノー1号」より濃く、「あおやぎ」と同程度で、花卉の色は純白で、蒴の色は青い。
2. 開花始は「サギノー1号」より2, 3日おそく、熟期もほぼ同程度に遅いが、「あおやぎ」より約4日早い。
3. 草丈は「サギノー1号」よりやや低いが低温湿潤な気象条件下で熟期の遅延する場合「サギノー1号」より草丈が高くなることもある。しかし常に「あおやぎ」より低い。穂揃いははなはだ整一である。
4. 茎収量は「サギノー1号」と同程度かまたはやや多いが、「あおやぎ」より少ない。子実収量は著しく多く年次、施肥および播種量等の条件の変化によっても子実の確収性が高い。
5. 繊維歩留および品質は「サギノー1号」「あおやぎ」と大差なく優劣は認められない。
6. 連作病土における亜麻立枯病抵抗性検定によると、本場では「サギノー1号」より強いが北見では却つて弱い。両地区とも罹病率はかなり高く、立枯病の抵抗性は低い。亜麻銹病に対しては本場、十勝とも「サギノー1号」より強いといえるが「あおやぎ」より弱い。
7. 耐倒伏性は従来 of いずれの品種よりも強く、かつ倒伏の回復が早い。
8. 子実千粒重量は従来 of いずれの品種より重く、「サギノー1号」より約20~30%重い。

奨励範囲

従来の亜麻栽培地帯であればその適地を選ばないが、特に収穫当時の多雨地帯にはこの品種を栽培するべきである。

試験場名	開花始 月日	収穫期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子実		繊維 歩留	試験 年次
				草丈 cm	茎長 cm	30cm間 茎数	子実重 kg	乾茎重 kg	1立 kg	千粒 g		
十勝支場	6.30	7.28	92	85.7	75.5	—	743	4,921	—	4.92	25.75	昭和30~33
北見支場	7.7	8.1	89	83.3	—	168	664	4,473	—	4.20	22.80	30~33
天北支場	7.4	8.4	97	73.8	—	187	874	4,654	667	5.50	—	32
国立農試 作物部	7.1	7.31	92	79.3	—	—	840	4,931	—	4.63	18.66	29~31

(3) ノープレス

来歴ならびに育成経過

この品種は1937年「コンカレント」と「ハーカレス」(Concurrent×Hercules)の組合せから育成され、1954年にオランダの優良品種に登録されたものである。北海道には「ウイーラ」と同じく昭和29年農林省振興局を通じてオランダから輸入され、本場、十勝および北見の両支場で品種比較が行なわれ、昭和33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

この品種に対してオランダにおける特性の評価は、銹病の抵抗性強く、耐倒伏性は中位で、繊維歩留は非常に高く、繊維品質は良好であるとしている。北海道における特性は次のとおりである。

1. 稚苗の色は「ウイーラ」と同じ濃緑で、花色は淡藍で「サギノー1号」「あおやぎ」と同色である。
2. 開花始および熟期は「ウイーラ」より3日遅いが、「あおやぎ」より2～4日早い。
3. 草丈は「ウイーラ」より高く、「サギノー1号」とほぼ等しいが、「あおやぎ」より低い。
4. 茎収量は本場で「ウイーラ」より多収で「あおやぎ」に伯仲し、十勝、北見で「ウイーラ」とほぼ等しい。
5. 子実収量は「ウイーラ」より少なく、「あおやぎ」と同様年次差が大きく、確収性に乏しい。
6. 繊維歩留は従来の品種中最も高く、繊維品質は従来の品種と優劣はない。
7. 連作病土における亜麻立枯抵抗性検定によると、「ウイーラ」より強いが、「あおやぎ」よりはるかに弱く、銹病に対しては「ウイーラ」と大差なく、「あおやぎ」より著しく弱い。
8. 収穫期近くの耐倒伏性は「ウイーラ」より劣るが「あおやぎ」と同程度かまたはやや強い。

9. 子実千粒重量は「ウィーラ」より僅かに軽いが「あおやぎ」より約10%ほど重い。

奨 励 範 囲

倒伏性は「サギノー1号」等の従来の品種より強いが、「ウィーラ」より弱く、倒伏の多発する道東沿海地域およびこれに準ずる地域はさけた方がよい。

試験場名	開花始 月日	収穫期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		繊維 歩留	試験 年次
				草丈 cm	葉長 cm	30cm間 茎 数	子実重 kg	乾茎重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
十勝支場	7. 2	8. 1	97	90.1	79.6	—	646	5,178	—	4.84	27.88	昭和30
天北支場	7. 6	8. 3	97	83.4	—	163	797	5,124	659	5.00	—	32
国立農試 作物部	7. 3	8. 2	95	81.2	71.5	—	842	5,057	—	4.52	19.73	29~32

XII て ん 菜

(1) 導 入 2 号 (GW 359)

来歴ならびに育成経過

この品種はアメリカ、コロラド州のグレイト、ウエスタン製糖会社で、野生種「ベタ、マルテマ」の2年生の1変種を材料とした交配によつて育成せられた品種「GW 359」で、昭和26年に日本甜菜製糖株式会社がはじめて輸入し、その後引つづき会社が大量の種子を輸入して試験機関ならびに農家の試作を行ない、毎年優秀な結果を示したので、昭和29年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 草丈は一般に高く、葉色は本育系のものに比べて濃緑で葉数も多い。
2. 甜菜褐斑病の被害が極めて少ない。
3. 葉頸重量が多く、根との比率が同程度である。
4. 根形は一般に長く、かつ分岐根がやや多い。
5. 葉根収量は多いが糖分はやや低い。登熟期は「本育 192号」に比べてややおくれる。

6. 有害性窒素は本育系のものに比べて少ない。

奨励範囲

登熟期は本育系のものに比べて遅れるので、道東、道北地方の寒冷地帯や中央部でも高冷地等を除いては道内一円に栽培してよい。

試験場名	収穫期における				ha 当り 収 量			根中糖分	純糖率	試験年次
	草丈	生葉数	枯葉数	根周	菜根重	葉頭重	可製糖量			
	cm	枚	枚	cm	kg	kg	kg	%	%	昭和年
道立農試種芸部	49.8	26	13	26.9	34,335	32,270	5,432	17.36	92.17	31~33
渡島支場	51.3	26	—	24.9	43,450	—	6,850	17.25	91.56	29~33
十勝支場	52.3	24	10	25.8	33,854	31,869	5,514	16.93	93.19	28~33
北見支場	47.3	25	—	24.2	33,799	24,690	5,553	18.34	91.06	29~33
根室支場	52.1	22	—	21.3	19,317	34,211	3,094	17.56	90.89	29~33
天北支場	50.2	23	—	25.0	32,162	26,434	4,963	16.72	90.77	29~33
宗谷支場	42.9	22	—	20.1	18,540	21,215	3,242	19.08	91.53	29~33
国立農試作物部	57.0	26	—	—	35,390	36,650	5,180	16.07	90.57	28~34

(2) てん菜合成1号(SY-B)

来歴ならびに育成経過

北海道農業試験場作物部において、昭和17年以降本育系の優良品種の中より優良個体を選抜し、2~4世代にわたって自花授精を行ない、毎代特性のすぐれた系統を選抜した。昭和26年までトップクロスにより、一般組合わせ能力を検定し、優良な系統についてはさらに二面交雑を行なつて、一般および特定組合わせ能力を検定し、これらの結果にもとづき Doxtator の合成品種推定式によつて系統群を選抜し、昭和31年度は集団で交配採種した。

Doxtator の推定式

$$A = b - \frac{1}{n}(b - c)$$

b = 全単交配の平均

c = 親の収量

n = 組合わされた系統数

以上によつて選抜されたものを2ヶ年にわたり本道各場所において生産力を検定した結果すぐれた特性を示したので、昭和35年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

葉根重は根室支場では年次による変動はあるが、他の支場ではいずれも「本育 192号」よりまさっていた。根中糖分は最も高く、「本育 192号」に比べてわずかに高い。褐斑病抵抗性は「本育 192号」に比べやや強い。

奨 励 範 囲

根釧地方を除く従来の「本育 192号」の栽培地帯に奨励する。

試 験 場 名	収 穫 期			kg当り収量		根中糖分	試験年次
	草 丈	葉 数	根 周	葉根重	可製糖量		
	cm	枚	cm	kg	kg	%	昭和 年
道立農試種芸部	50.4	24.8	26.1	28,880	4,100	15.88	34
上 川 支 場	56.6	23.7	31.2	41,975	6,845	17.93	33~34
十 勝 支 場	56.5	27.0	28.7	40,475	6,540	17.14	33~34
北 見 支 場	44.5	24.5	25.9	27,220	4,465	17.78	33~34
根 室 支 場	56.2	24.1	25.9	26,565	4,270	17.89	33~34
天 北 支 場	53.5	—	28.8	34,195	5,550	17.78	33~34
宗 谷 支 場	51.7	22.3	24.3	28,505	3,870	18.88	33~34
国立農試作物部	—	—	—	41,435	6,375	17.11	33~34

備考 病害無防除区の成績である。

(3) てん菜合成2号 (SY—C)

来歴ならびに育成経過

北海道農業試験場作物部において昭和28年に「GW 359」より任意に50個体の母根を選抜し、昭和29年これを2つ割りにして、一方を自家授精、他の一方を集団定植、自由交雑を行なつて母根別に採種した。昭和30年自殖1回系統 (S₁) および母系々統の特性を検定し、その結果をもとにしてさらに優良な S₁ 系統を選抜し、これら S₁ 系統から系統群を選抜し、昭和31年度に集団で交配採種した。

以上によつて育成されたものを2ケ年にわたり本道各試験機関において生産力を検定した結果、すぐれた特性を示したので昭和35年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

葉根重は北見支場においてやや変動が認められ、根室支場においてやや劣るが、全般的には「導入2号」にまさる。根中糖分は「導入2号」と大差ない。褐斑病抵抗性は「導入2号」に比べわずかに弱い。

奨 励 範 囲

従来の「導入2号」の栽培地帯で、これにおきかえて奨励する。

試 験 場 所	収 穫 期			ha 当り 収 量		根中糖分	試験年次
	草 丈	葉 数	根 周	葉根重	可製糖量		
	cm	枚	cm	kg	kg	%	昭和 年
道立農試植芸部	48.6	31.6	30.3	38,930	5,540	15.97	34
上 川 支 場	54.9	24.9	31.6	51,730	8,270	17.46	34
十 勝 支 場	55.6	24.5	28.6	42,765	6,765	16.65	33~34
北 見 支 場	45.7	25.3	25.0	26,940	4,540	18.08	33~34
根 室 支 場	58.0	23.9	28.0	30,600	4,680	16.88	34
天 北 支 場	51.8	—	31.5	38,840	6,490	17.94	34
宗 谷 支 部	54.0	22.8	25.0	34,480	5,350	16.83	34
国立農試作物部	—	—	—	40,680	5,025	16.46	33~34

備考 病害無防除区の成績である。

XIII 薄 荷

(1) 万 葉 (薄荷農林1号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和22年に旧札幌農事改良実験所北見試験地において、「南進」を母とし、「赤田」を父として人工交配を行ない、その実生種子を育成し、以来選抜を重ね、昭和26年「北交1号」という系統名をつけて生産力検定試験ならびに特性検定試験を行なうと同時に各地で地方適否を確かめたところ優良と認めたので昭和28年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 草型は扇状をなし、葉は楕円形でやや濃緑色でたれ、葉柄は短かく、茎は赤紫色で、外見上識別しやすい。
2. 収穫適期は9月下旬で、「北進」に比べておそい。

3. 耐病性ならびに越冬性は極めて強く、銹病による被害は少ない。
4. 取卸油量は従来の品種よりもはるかに多く、脂分は「北進」よりもやや劣る。

奨励範囲

耐病性、越冬性は強く、輪作用薄荷として育成した品種で、薄荷栽培地帯全地域に栽培してよい。

試験場名	植付期	刈取期	刈取期における			ha 当り 収 量			採脂率	試験年次
			草丈	分枝数	葉数	生草	乾草	取卸油		
北見支場 国立農試 遠征研究室	月 月 5.21 9.20	日 日 9.20 9.中	cm 89.0	本 41	枚 509	kg 22,050	kg 6,075	kg 47,928	% 53.6	昭和 年 26~33
	—	9.中	105.0	45	529	31,740	8,555	73,750	60.5	27~28

(2) すずかぜ (薄荷農林2号)

来歴ならびに育成経過

この品種は旧札幌農事改良実験所北見試験地において、昭和23年「南進」を母とし「北進」を父として人工交配を行ない、その雑種第1代を養成して選抜を重ね、昭和27年より「北交2号」の系統名をつけ道内主要生産地でその実用的特性につき各種の試験を重ねてその優秀性を認めたので、昭和29年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 草型は「万葉」の扇状型に対し、やや直立型をなし葉は楕円形でたれ、葉色はやや淡く緑色で特有の光沢があり、茎は淡赤紫色である。
2. 地下茎は太く、地中にやや垂直に伸長する傾向がある。
3. 銹病の抵抗性は「万葉」に比較するとやや弱いのが、在来品種に比べるとはるかに強く、倒伏にも強い。
4. 晩生種で、収穫期は在来品種に比較すると10日前後おそく、その適期は9月中旬で「万葉」よりも1週間位早いのが、越冬性が強く種根、萌芽ともに多く増殖率が高い。
5. 生草量は「万葉」より多いが収油率がやや低いので、取卸油量は「万

葉」に比較するとやや劣る。しかし脂分含量は「万葉」より高く、「北進」と同程度である。

奨励範囲

「万葉」と適宜配合して栽培することが安全増収上望ましいが、多肥性であるから瘠薄地帯は避けたほうがよい。

試験場名	植付期	刈取期	刈取期における			ha 当り 収 量			採脂率	試験年次
			草丈	分枝数	葉数	生草	乾草	取卸油		
北見支場 国立農試 遠軽研究室	月日 5.21	月日 9.21	cm 87.0	本 41	枚 407	kg 22,971	kg 6,691	kg 43,192	% 55.8	昭和 年 26~32
	—	9.中	110.0	45	543	34,250	9,540	68,950	64.0	27~28

XIV スエーデンかぶ

(1) ネムロルタバガ

来歴ならびに育成経過

北海道立農業試験場根室支場において、昭和21、22の両年に、根釧地方の地方種を蒐集して適品種の選抜育成を行なっていたが、そのうち根室町1農家の集団から優良系統を選抜し、昭和23年に降集団選抜ならびに生産力検定予備試験を行ない、昭和26年より生産力検定試験を行なつたところ、優良と認め昭和29年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 草丈、葉数、根周は「マゼスチック」と大差ないが、姿勢は「マゼチック」がやや直立であるのに対し、この品種は中間である。
2. 地上部の根色は赤紫色で、地中部の根色は白色であつて、肉色も白色である。
3. 白腐病に対する抵抗性は、「マゼスチック」よりはるかに強く、「せんだいかぶ」よりもやや強い。
4. 根部収量は「せんだいかぶ」よりも多収で、「マゼスチック」と比較すれば、白腐病の多発年には多収を示し、本病の少ない年には多少減収になる。

5. 乾物含量は、茎葉はその他の品種と大差なく、葉根では多少劣る。

奨励範囲

根釧地方特に内陸部の白腐病多発地帯に適する。

試験場名	収 穫 期			ha 当 り 収 量			白 腐 病		試験年次
	草丈	葉数	根周	葉 根		茎葉重	罹病率	被害度	
				根 重	乾物重				
根 宝 支 場	cm 47.9	枚 12	cm 44.3	kg 47,483	kg 5,085	kg 8,160	% 10.0	— 0.18	昭和 年 24~33
天 北 支 場	48.3	15	35.7	50,998	—	15,658	14.1	—	28~33
宗 谷 支 場	41.5	13	39.2	61,230	—	11,230	—	—	33

(2) マゼスチック1号 (MA—1号)

来歴ならびに育成経過

昭和12年に優良品種に決定普及された「アセスチック」について、北海道立農業試験場根宝支場において昭和26年と昭和28年に、白腐病耐病性を主要目標として優良母根を選抜し、集団採種を行ない、その後も集団選抜をつづけるとともに昭和30年以降は「MA—1号」の系統名を附し、生産力検定を行なった結果優良と認めたので、昭和34年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 草姿はやや直立、葉色はやや淡赤紫、葉柄色は生育最盛期には下部淡赤紫を呈し、収穫期における地上部根色は鮮赤紫色、地下部根色および肉色は淡橙色（クリーム色）を呈す。
2. 頸は基本品種よりやや長く、根形は基本品種が大きい球形に対し、この品種は円錐形である。
3. 白腐病の被害は「ネムロルタバガ」と大差なく、「せんだいかぶ」、「ホワイトフレッツシユドネツクレス」より少ない。
4. 葉根収量は「ネムロルタバガ」より約1.5割多く、「せんだいかぶ」、「ホワイトフレッツシユドネツクレス」より2割位多い。宗谷、天北両支場においても多収性を示している。

奨励範囲

現在の優良品種の中では最も白腐病に強いとされている「ネムロルタバガ」は従来のように、根釧内陸特に白腐病多発地帯の適品種とし、従来多発しなかつた地帯では「マゼスチック」、「せんだいかぶ」、「ホワイト・フレツシュド・ネツクレス」をこの品種におきかえて奨励する。

試験場名	白腐病罹病率	収穫期における			ha 当り 収 量		無病個体1ヶ平均重	試験年次
		草 丈	葉 数	根 周	葉根重	茎葉重		
根室支場	3.0	49.3	16	45.0	51,990	9,890	1,790	昭和 年 30~33
天北支場	5.8	53.2	16	34.3	59,350	13,893	—	31~33
宗谷支場	0	46.0	13	37.1	67,870	9,810	—	33

XV 牧 草

禾本科牧草

(1) オーチャードグラス・フロード

来歴ならびに育成経過

この品種は農林省北海道農業試験場畜産部において昭和28年スエーデン種子協会試験場より輸入し、昭和28年から同32年まで5ヶ年間試験を行ない、昭和33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

晩生型で在来種に比べて出穂、開花は14日前後おそい。多葉型で葉長、葉幅は比較的大きく、耐寒性は大で、降雪直前までよく緑葉を維持する。耐病性は在来種に比べてまさり、採草用品種として再生力、早春萌芽が旺盛である。

奨励範囲

1. 北海道におけるオーチャードグラス栽培地帯での栽培に好適する。
2. 赤クロバーと混播して乾草生産を行なう場合、赤クロバー中生種とほぼ開花期が同じなので、晩生種との混播利用も有利である。
3. オーチャードグラスは開花後急速に粗剛化し、きわめて刈取適期は短か

いから、早、晩生品種の作付配合は乾草品質の向上、労力配分上有利と考えられる。

4. オーチャードグラス在来種は早生型に属するから、赤クロパー早生型品種との混播利用が有利である。

試験場名	出穂期	開花期	草 丈		ha当り収量		乾 燥 率		試験年次
			1 番草	2 番草	生 草	乾 草	1 番草	2 番草	
天 北 支 場 国 立 農 試 畜 産 部	月日 5.30	月日 7.16	cm 107.5	cm 83.4	kg 34,490	kg 9,380	% 27.20	% —	昭和 年 26~28
	6.10	6.27	112.7	71.5	22,878	6,410	28.03	25.39	28~32

荳 科 牧 草

(2) 赤クロパー・マンモスクロパー

来歴ならびに育成経過

この品種は農林省北海道農業試験場畜産部において昭和29年カナダの中央試験場より輸入したもので、昭和30年から昭和32年にいたる3ヶ年間にわたって、その特性と収量の調査を実施し、昭和33年優良品種に決定した。

特 性 概 要

晩生1回刈種で、植物体表面に多くの繊細な毛茸を有する。茎は開花前までは多汁質で軟かく緑色を呈している。草丈高く伸長し、初年目生育は緩慢で開花をみないが、2年目以降は極めて旺盛な生育をする。開花期は2月20日前後で、2番草はほとんど開花しない。寒冷地では1回の刈取りに終る。

奨 励 範 囲

1. 原則的には寒冷地域で赤クロパーの2回刈取りが不可能な地帯に奨励しうる。
2. 前記以外の地域においても、牧草地の赤クロパーが第3年目以降次第に枯死株を増加するから、赤クロパー在来種と本種との混播利用は、牧草地の栄養生産性を高め、乾草品質の改善上望ましいと考えられる。
3. 本種は成熟が進むと茎は粗剛化する傾向がある。乾草にする場合は刈取

りを早目に行う方がよい。

4. 2回刈種に比べて土地の酸性と瘠薄に耐える力が大きいとされているから土壌改良を目的とした利用も有利である。

試 験 場 名	開花期	草 丈		ha当り収量		乾 燥 率		試験年次
		1番草	2番草	生 草	乾 草	1番草	2番草	
	月日	cm	cm	kg	kg	%	%	昭和 年
根 室 支 場	7.31	55.1	10.3	16,553	2,977	18.70	—	30~32
天 北 支 場	6.21	53.5	21.1	51,235	9,100	18.10	—	30~32
宗谷支場(普通地)	6.27	55.3	46.3	33,390	5,200	—	—	33
宗谷支場(重粘地)	6.24	53.3	40.1	27,730	4,970	—	—	33
国立農試畜産部	7. 5	81.2	40.5	31,048	5,789	18.82	17.59	30~32

(3) 赤 ク ロ バ ー ・ サ イ ロ

来歴ならびに育成経過

この品種はスウェーデンにおいて Merkur より選抜した品種で、外観は Merkur に類似している多葉型品種である。この種子は昭和28年スウェーデン種子協会試験場より輸入し、北海道立農業試験場根室支場および天北支場において昭和30年から昭和32年にいたる3ケ年間にわたって、その特性および収量調査を実施し、昭和33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

中生型標準の「ドラード」より2番草の生育は劣るが、常に茎数多く葉部割合が高い。収量は「ドラード」より多収であるが、2番草はやや劣る。1番草の開花は「ドラード」より7~10日おそいが、2番草はほぼ同時期中中生型に属し、チモシーの早生型品種と刈取期が一致する。炭疽病の被害少なく永続性も大きい。

奨 励 範 囲

1. 天北、根釧地域の栽培に恰適する。
2. 前記地域においては「ドラード」に代わる中生型品種として、チモシー在来種との混播利用に適する。

試験場名	開花期		収穫期		草丈		ha当り収量		乾燥率	試験年次
	1番草	2番草	1番草	2番草	1番草	2番草	生草	乾草		
根室支場	月日 7.24	月日 —	月日 8.12	月日 9.23	cm 53.5	cm 19.5	kg 17,780	kg 3,210	% 17.9	昭和 年 30~32
天北支場	6.18	7.23	7. 1	8.11	66.4	26.2	57,415	9,875	17.1	30~32

(4) ラデノクロバー

来歴ならびに育成経過

「ラデノクロバー」の起源は正確には知られていないが、約50年前にイタリアのラデ地方に起源を殆し、自然淘汰によつて改良されてきたものといわれている。この種子は米国より輸入したもので、北海道立農業試験場天北支場において昭和26年から昭和28年まで3ヶ年間品種比較試験を行つた結果、従来の牧草に比べて多収であり、すぐれているので昭和29年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 性状は白クロバーの大型の品種ともみられ、普通種に比し耐寒性が劣る。
2. 茎は匍匐性で地上に接近して伸長する。よく伸長した節の部分からは根を発生する。
3. 刈取後の再生力はきわめて旺盛で、特に第2年目以降は他の牧草を圧倒する傾向がみられる。
4. 水分は多いが蛋白性含量は赤クロバーより多く、繊維含量は少ない。赤クロバーに比べ飼料価値は高い。

奨 励 範 囲

永年性放牧草で、温暖な気候に適するが、気候寒冷かつ湿潤な土壌においてもよく繁茂し、耐陰性が大である。比較的浅根性であるから作土の浅い土壌でも生育は良好である。原則として放牧地用として利用すべきで、乾草用としては不適當である。

試験場名	開 花 始		刈 取 期		ha 当 り 収 量						試験 年次
	1 番刈	2 番刈	1 番刈	2 番刈	生 草 重			乾 草 重			
					1 番刈	2 番刈	計	1 番刈	2 番刈	計	
天北支場	月日 6.19	月日 7. 4	月日 7.15	月日 8.17	4,262	2,610	6,872	494	345	839	昭和年 26~28

(5) ルーサン・グリム

来歴ならびに育成経過

この品種は1905年ドイツ人 Wendelin Grimm 氏によつてアメリカのミネソタ州にもたらされ、50年にわたる選抜淘汰の結果育成された耐寒性品種である。雑色種に属し、アメリカでは北部諸州にその栽培が奨励されている。種子はアメリカより導入し、北海道立農業試験場天北支場において昭和29年から昭和32年まで4年間試験し、昭和33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

草型は直立型で花色は濃紫色、茎葉の毛茸は顕著でない。供試種子は黄化個体の混入はみられなかつた。播種当年の生育は他の品種に比べ旺盛で、再生力が大きく、2年目以降は年3回の刈取りが可能で、特に耐寒性にすぐれ茎数、茎葉比も大である。

奨 励 範 囲

天北、根釧地域の栽培に好適している。

試験場名	開 花 始			収 穫 期			刈取当時の草丈			ha当り収量		乾燥率	試験 年次
	1 番刈	2 番刈	3 番刈	1 番刈	2 番刈	3 番刈	1 番刈	2 番刈	3 番刈	生草	乾草		
	月日	月日	月日	月日	月日	月日	cm	cm	cm	kg	kg	%	
天北支場	7. 37	7.29	9.10	7. 68	7. 79	9.30	96.4	57.5	45.2	37,655	9,090	23.5	昭和年 29~32
宗谷 支場	酸性 土壌 7.14	—	—	—	—	—	94.6	69.1	—	23,364	7,733	—	30
	酸性 矯正 7.14	—	—	—	—	—	111.7	65.6	—	33,974	12,765	—	30

(6) ルーサン・デユピユイ

来歴ならびに育成経過

この品種はフランスで育成され、昭和28年アメリカ農務省中央研究所より

輸入したもので、農林省北海道農業試験場畜産部において昭和29年から昭和32年まで4年間試験し、同33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

早生型で道産在来系統に比べて開花は4日ぐらい早い。草型は直立型で花色は濃紫色、茎葉の毛茸はやや顕著である。播種当年の収量はやや劣るが、2年目以降は生育旺盛で再生力強く、年3回刈取りが可能である。斑葉病の被害は少ない。

奨 励 範 囲

北海道中部以南地域の栽培に好適している。なお排水良好な肥沃地を選び土壌酸度は少なくとも pH6.2 に酸性矯正することが必要である。

試験場名	開 花 期			草 丈			ha当り収量		乾 燥 率			試験 年次
	1番草	2番草	3番草	1番草	2番草	3番草	生草	乾草	1番草	2番草	3番草	
	月日	月日	月日	cm	cm	cm	kg	kg	%	%	%	
宗谷支場	6.30	—	—	62.9	63.1	45.4	23,140	4,920	—	—	—	昭和年 33
国立農試 畜産部	7.7	8.29	10	102.5	87.0	79.4	42,210	9,536	22.47	18.65	21.64	29~32

XVI そ 菜

ほうれん草

(1) 札幌大葉

本品種は北海道農業試験場作物部において昭和19年以来、「ピロフレー」から系統淘汰法により選抜育成したものであつて、昭和28年優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 姿勢は開張性で、葉形はやや楕円形の広葉でやや濃緑色をていし、葉面は縮皺少なく、葉数はやや少なく、葉柄基部及び根部は紅色をていする。
2. 純度高く、生長力もおう盛であるが、抽苔及び開花はおそく従つて収穫適期は長いので主として春播用に適するが、秋用並びに越年用にも供しうる。
3. 収量は「ピロフレー」に比し差はないが、品質が優良であり、また収穫

適期における生育がおう盛で、数日の抽苔遅延により採取期間が長いので増収が期待できる。

4. 貯蔵性は大であるが、収穫後の凋萎度は並である。

5. 露菌病及び立枯病の耐病性は並である。

試験場名	発芽期 抽苔期 日数	抽苔期における			未抽苔	収 量		試験年次
		葉 長	葉 巾	葉 数		10a 当り	百分比*	
作物部	38.0	15.2	7.7	9.3	—	698	107.1	昭和年 24~27
渡島支場	40.0	13.3	5.7	6.8	—	450	96.5	26~27
十勝支場	44.5	10.3	5.1	7.6	—	—	—	25~26
北見支場	39.0	18.9	8.2	12.0	15.0	660	103.4	25~27
根室支場	28.0	16.3	11.0	12.0	—	—	—	26~27

* ピロフレーを 100 とする。

か ぼ ち や

(1) 琴 似

本品種は北海道農業試験場作物部において在来「デリシヤス」を自殖、系統選抜して育成したもので、昭和32年優良品種に決定した。

特 性 概 要

- 「琴似」は第1雌花の着生節位が6節前後で他の品種に比べて低く、その開花期も早い。
- 果実の形状は偏円形で、「デリシヤス」のスペード型とは異なる。
- 果実の色は「デリシヤス」のように黒緑に花痕跡から灰緑の縦縞がある。
- 花痕跡は時に「バターカップ」の如く大きくなることもある。
- 果肉は濃黄色、種子は黄色で「デリシヤス」の白色とは異なる。
- 果実は1.0~1.5kgで「デリシヤス」の2.0~2.5kgに比較して軽く、総収量も少ないが、「芳香青皮」より収量が多い。
- 「琴似」は時期による食味の差異が少なく、美味で「芳香青皮」に匹敵する。

8. 果実は粉質で甘味はやや少ない。貯蔵性が大で翌年の1, 2月まで貯蔵できる。

試験場名	第1花開花日		10株当たり		1果重	食味	**貯蔵中の重量変化	***腐敗果率	試験年次
	雌花	雄花	収量	果数					
国立農試作物部	月日 7.30	月日 7.30	kg 95.5	個 69.9	kg 1.37	4.7	90.1	4.0	昭和31年

* 10月上, 下旬, 11月中旬, 12月中旬の平均, 優5, 良上4, 良3, 可2, 不可1

** 10月5日を100とする12月20日現在

*** 12月3日調査

XVII 果 樹

梨

(1) 初 日

本品種は、北海道農業試験場作物部において、昭和11年「身不知」を父とし、「長十郎」を母として、人工交配を行ない実生より選び出し、昭和32年優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 早生種で札幌地方では9月中旬に成熟期となる。
2. 果実は180 g内外で小果であるが多収である。
3. 果皮は緑褐色で甘味が多く、肉質中等、早生種として品質良好である。
4. 食用適期は、採取後約10日間で樹勢強く、落葉期が著しく早く、耐寒性は「身不知」に匹敵するものと見込まれる。

奨 励 範 囲

耐寒性が強いので中部以北の地方、特に根釧地方、宗谷地方など従来夏期温度が低いため、適品種のなかつた地帯に適する。外観おとり貯蔵性に乏しいので、自家用栽培に向いており、大栽培は避けなければならない。

試験場名	*開花期	成熟期	**落葉率	果形	果色	***糖分	品質	食用適期
国立農試作物部	5月22日	9月中旬	100%	短紡錘	緑褐	12.1%	上の下	9月末迄

試験場名	1本当り収獲果数				1本当り重量				平均重量			
	4年生	5年生	6年生	7年生	4年生	5年生	6年生	7年生	4年生	5年生	6年生	7年生
国立試験場 農作物部	—	23.0	42.0	25.0	—	kg 3.3	kg 7.7	kg 20.5	—	g 142	g 184	g 178

* 昭和29, 30年の平均

** 昭和30年11月18日現在

*** 検糖計示度

(2) 甘 玉

本品種は、北海道農業試験場作物部において、昭和13年に「身不知」を父とし「長十郎」を母として、人工交配を行ない、実生より選抜したもので、昭和32年優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 中熟種で、札幌地方で9月末から10月初旬にかけて採取され、11月中旬まで食味良好である。
2. 果実は円形で淡緑黄色をていし、重さは225～260gになる。
3. 肉質はやや粗で核心が割合大きい、はなはだ甘味に富み多汁で品質は同時期に出廻る「相内」よりすぐれている。
4. 樹勢が強く、栽培容易であるが、結果期に入ることがややおそく収量は中程度である。
5. 耐寒性は、「相内」よりおとり、「長十郎」程度とみられる。
6. 腋花芽の着生が多く、果実が不揃いとなりやすく、また無袋にすると果皮が割れやすい欠点がある。

奨 励 範 囲

耐寒性の点からみて、一応胆振以北の最低気温が $-27 \sim -28^{\circ}\text{C}$ 以下に下らない地方に適するものと考えられる。樹勢が強く栽培が容易なので、経済栽培ばかりでなく、自家用栽培にも適している。

試験場名	満開期	* 成熟期	** 落葉率	果形	果色	*** 糖分	品質	食用適期
国立農試作物部	5月23日	9月下旬 ～10月上旬	50%	円	緑黄	12.0%	上	12月中旬

試験場名	1本当り収果果数				1本当り重量				平均重量 (1個当り)			
	4年生	5年生	6年生	7年生	4年生	5年生	6年生	7年生	4年生	5年生	6年生	7年生
国立農試作物部	—	4.0	24.0	79.0	—	kg 1.0	kg 6.4	kg 20.9	—	g 250	g 268	g 265

* 昭和29, 30年平均

** 昭和30年11月18日現在

*** 検糖計示度

(3) 北 洋

本品種は北海道農業試験場において、昭和11年「長十郎」を父とし「二十世紀」を母として交配した実生種から選び出し、昭和32年優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 晩生種で、札幌地方では10月下旬に採取、翌年2月まで貯蔵できる。
2. 果実は260～300gで果形やや不整な扁円で淡褐色をていしている。
3. 肉質は密で多汁、貯蔵中に甘味が増す。
4. 札幌地方では、「長十郎」より豊産で黒星病の被害が少なく栽培が容易である。
5. 耐寒性は「長十郎」程度と見込まれる。

奨 励 範 囲

晩生種であるので、空知以南、胆振以北の中部地方に好適しているが、道南地方においても、黒星病の被害が少なく、粗放栽培に耐えるので一部地方に適するものと考えられる。

試験場名	※ 満開期	成熟期	*** 落葉率	果形	果色	*** 糖分	品質	食用適期
国立農試 作物部	5月22日	10月下旬	20%	扁円	淡褐	12.4%	上	翌年2月迄

試験 場名	1本当り収穫果数				1本当り重量				平均重量(1個当り)			
	4 年生	5 年生	6 年生	7 年生	4年生	5年生	6年生	7年生	4年生	5年生	6年生	7年生
国立農 試作物 部	—	8.0	個 62.0	個 91.0	—	kg 2.2	kg 18.0	kg 26.8	—	g 269	g 290	g 295

* 昭和29年、30年の平均

** 昭和30年11月18日現在

*** 検箱計示度

優良品種（昭和27年度以前決定）及び元優良品種

I 水 稻

梗 種

- | | | |
|----|-----------|------------|
| 1 | 水稻農林 33 号 | (北海 96号) |
| 2 | 水稻農林 15 号 | (北海 82号) |
| 3 | 水稻農林 19 号 | (北海 86号) |
| 4 | 水稻農林 20 号 | (北海 86号) |
| 5 | 北 海 116 号 | |
| 6 | 北 海 95 号 | |
| 7 | 水稻農林 34 号 | (北海 100号) |
| 8 | シ ラ ュ キ | (北海 103号) |
| 9 | 水稻農林 28 号 | (北海 89号) |
| 10 | 石 狩 白 毛 | (上育 B 7号) |
| 11 | 栄 光 | (上育 B 18号) |

- | | | | |
|----|---|-------|-------------|
| 12 | 新 | 榮 | (渡育 124号) |
| 13 | 南 | 榮 | (渡育 129号) |
| 14 | 巴 | まさり | (渡育 120号) |
| 15 | 亀 | 錦 | (渡育 106号) |
| 16 | 中 | 生 榮 光 | (上育 B18号 1) |

糯 種

- | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|-------------|
| 17 | ハ | シ | リ | モ | チ | (北海 123号) |
| 18 | キ | タ | モ | チ | | (北海 120号 A) |
| 19 | ユ | キ | モ | チ | | (北海 125号) |
| 20 | 南 | | | 糯 | | (渡育 114号) |

元 優 良 品 種

- | | | | |
|----|---|---|-----------------|
| 1 | 赤 | 毛 | |
| 2 | 坊 | 主 | |
| 3 | 十 | 勝 | 黒 毛 (本第2446号) |
| 4 | 黒 | 毛 | (本第2006号) |
| 5 | 魁 | | (本第2004号) |
| 6 | 井 | 越 | 早 稻 (渡支第 4号) |
| 7 | 白 | 毛 | (渡支第54号) |
| 8 | 坊 | 主 | 1 号 (上育 1号) |
| 9 | 坊 | 主 | 2 号 (上育 2号) |
| 10 | 坊 | 主 | 5 号 (上育 5号) |
| 11 | 坊 | 主 | 6 号 (本育 3号) |
| 12 | チ | ン | コ 坊主 1号 (上育 3号) |
| 13 | チ | ン | コ 坊主 2号 (上育 4号) |
| 14 | 赤 | 毛 | 3 号 (本育 3号) |
| 15 | 津 | 輕 | 早 稻 1号 (渡育 1号) |
| 16 | 走 | 坊 | 主 (本育 26号) |
| 17 | 伊 | 達 | 近 成 (渡支第44号) |

18	津 軽 坊 主 1 号	(渡育 3号)
19	中 生 白 毛	
20	北 見 赤 毛	(本第4660号)
21	北 見 赤 毛 1 号	(北育 13号)
22	早 来 坊 主	(本育 22号)
23	走 坊 主 1 号	(上育 15号)
24	走 坊 主 2 号	(上育 15号)
25	中 生 白 毛 1 号	(本育 215号)
26	北 光	(上育 37号)
27	早 生 富 国	(上育 40号)
28	南 光	(渡育 46号)
29	水 稻 農 林 9 号	(北海 75号)
30	玉 光	(渡育 37号)
31	渡 島 白 毛	(渡育 110号)
32	万 太 郎 米	(檢試第 275号)
33	渡 島 錦	(渡育 30号)
34	早 生 白 毛	(上育 46号)
35	亀 田 早 稻	(渡育 78号)
36	曉	
37	富 国	(上育 43号)
38	水 稻 農 林 11 号	(北海 77号)
39	大 野 中 稻	(渡育 73号)
40	巴 錦	(渡育 101号)
41	共 和	(上育 B11号)
42	ト ミ ニ シ キ	(上育 154号)
43	晩 生 榮 光	(上育 B18号 5)
44	早 生 光	(渡島 86号)
45	北 海 98 号	
46	北 海 108 号	

- | | | | |
|----|---------|-------|------------|
| 47 | 北 海 | 112 号 | |
| 48 | 北 海 | 129 号 | |
| 49 | 上 育 | 140 号 | |
| 50 | タ イ セ ツ | | (北海 130号A) |
| 51 | 渡 島 | 糯 | (渡支第13号) |
| 52 | 松 本 | 糯 | (本第1334号) |
| 53 | 山 崎 | 糯 | (上支第 728号) |
| 54 | 北 海 | 糯 1 号 | (北海 58号) |
| 55 | 小 川 | 糯 1 号 | (上育 13号) |
| 56 | 北 海 | 121 号 | |
| 57 | 福 | 糯 | (上育 87号) |
| 58 | 栄 | 糯 | (上育 86号) |
| 59 | 功 | 糯 | (上育B28号) |
| 60 | 神 力 | 糯 | |
| 61 | 改良糯 | 1 号 | (本育 34号) |
| 62 | 栗 柄 | 糯 | (本支第 408号) |

II 陸 稻

- | | | | |
|-----------|-----|-----|-----------|
| 1 | 北 海 | 早 生 | (本育 328号) |
| 元 優 良 品 糯 | | | |
| 1 | 北 海 | 赤 毛 | (本育 329号) |

III 大麥および裸麥

- | | | | |
|---------|-----|-----|------------|
| 秋 播 大 麥 | | | |
| 1 | 細 稈 | 2 号 | |
| 秋 播 裸 麥 | | | |
| 1 | 北 斗 | 裸 | (本系 3号) |
| 春 播 大 麥 | | | |
| 1 | 大 樹 | 大 麥 | (十支第7177号) |
| 2 | 早 生 | 六 角 | |
| 3 | 春 | 星 | |

春播裸麥

- 1 丸実 16 号 (本育 31号)
- 2 三月子 1 号 (本育 32号)
- 3 北見裸 (北系 1号)
- 4 根室裸

元優良品種

- 1 ブリューリボン
- 2 早生四角
- 3 日星
- 4 秋播北星
- 5 丸実 15 号
- 6 チツコ
- 7 青実
- 8 瀬棚裸
- 9 勝関 (本系 16号)
- 10 札幌六角 (本第 875号)
- 11 米国 4 号 (限)
- 12 二角シバリー (本第 8 号)
- 13 モラビヤ
- 14 ハルビン二条
- 15 紫裸 (本系 7号) (限)

IV 小麦

春播小麦

- 1 春播小麦農林29号 (北海 147号)
- 2 春播小麦農林75号 (北海 215号)

秋播小麦

- 1 赤錆不知1号 (本育 52号)
- 2 小麦農林8号 (北海 26号)
- 3 小麦農林62号 (北海 197号)

元優良品種

春播種

- 1 札幌春小麦9号 (本育 9号)
- 2 札幌春小麦10号 (北育 1号)
- 3 春播小麦農林3号 (本育 84号)
- 4 硬質春播小麦農林35号 (北海 172号)
- 5 春播小麦北海 178号 (限)

秋播種

- 1 マーチン 8号
- 2 白 肌 (本第 162号)
- 3 赤皮赤 1号 (本育 27号)
- 4 ドーソン 1号 (本育 33号)

V ライ麦

- 1 ベトクーザ

VI 燕 麥

- 1 ビクトリー 1号 (本育 30号)
- 2 勝冠 1号 (本第 13838号) (限)
- 3 前 進
- 4 タ ン ミ
- 5 北 洋 (限)
- 6 黒 夷 1号 (純4-22)

元優良品種

- 1 アメリカ燕麥 (本第 855号)
- 2 ベルギー燕麥12号 (本育 12号)
- 3 草燕麥 2号 (本育 89号)
- 4 早生燕麥 2号 (本育 299号)
- 5 シ カ ゴ (本第 11464号)
- 6 勝冠 2号
- 7 白 片 穂 (本第 865号) (限)

- | | | |
|----|----------|------------|
| 8 | 早生燕麦 1 号 | (本育 300号) |
| 9 | 榮 進 | |
| 10 | 黒 実 | (限) |
| 11 | シ ロ ミ | (燕麦農林 1 号) |
| 12 | 改 良 裸 | |
| 13 | 大 洋 | (限) |

VII 五 蜀 黍

硬 粒 種

- | | | |
|---|---------|---------------|
| 1 | ロングフエロー | (本第1836号) |
| 2 | 札 幌 八 行 | (本第 214号) |
| 3 | 黄 早 生 | (本第1947号) (限) |
| 4 | オ ノ ア | |
| 5 | 坂 下 | |

甘 味 種

- | | |
|---|-------|
| 1 | 黄 金 糯 |
|---|-------|

馬 齒 種

- | | | |
|---|------------------|-----------|
| 1 | マンモス ホワイト デントコーン | (本第2520号) |
| 2 | エロー デントコーン | (本第1951号) |
| 3 | ウイ斯科ンシン12号 | |
| 4 | 複 交 1 号 | |
| 5 | 複 交 2 号 | |
| 6 | 複 交 3 号 | |

元 優 異 品 種

- | | | |
|---|------------|-----------|
| 1 | 中 生 白 | (本第4622号) |
| 2 | 札 幌 白 | (本第 912号) |
| 3 | ツ ー イ ヤ ー | |
| 4 | ウイ斯科ンシン第 8 | (本第1946号) |
| 5 | 白 色 八 行 | (本第2165号) |
| 6 | 釧 路 早 生 | (限) |

7 ストールス エバーグリーン

8 真 交 13 号

9 札 交 130 号

10 玉蜀黍北交1号

11 玉蜀黍北交2号

12 U-26

13 U-32 a

VIII 大 豆

1 吉 岡 大 粒 (本第2065号)

2 早 生 裸

3 大 谷 地 2 号 (十育8号)

4 蘭 越 1 号 (十育6号)

5 中 生 光 黒 (十支第963号)

6 晩 生 光 黒 (十支第908号) (限)

7 白 鶴 の 子 (限)

8 丸 小 粒

9 奥 原 1 号 (十育 51号)

10 長 葉 裸 1 号 (本育 414号)

11 十 勝 長 葉 (十育55号の1)

12 北 見 長 葉 (十育55号の3)

13 早 生 鶴 の 子

14 十 勝 裸 (十育61号)

15 石 狩 白 1 号 (十育40号)

元 優 良 品 種

1 大 谷 地 (本第926号)

2 赤 莢 (本第196号)

3 石 狩 白 (本第3415号)

4 霜 不 知 (本第5844号)

5 霜 不 知 1 号 (十育 13号)

- | | |
|--------------|--------------|
| 6 白 小 粒 | (本第43号) |
| 7 鶴 の 子 | (本第244号) |
| 8 甘 露 | (本第1061号) |
| 9 大 粒 裸 | (十育 25号) |
| 10 白 花 大 粒 裸 | (本第14921号) |
| 11 檜 山 黒 1 号 | (檜育 1号) |
| 12 中 生 黒 大 粒 | (本第 600号) |
| 13 大 谷 地 1 号 | (十育 1号) |
| 14 蘭 越 | (本第3437号) |
| 15 銀 大 豆 | (本第4958号) |
| 16 三 石 大 豆 | (本第3414号) |
| 17 中 生 裸 | |
| 18 赤 莢 1 号 | (十育 24号) |
| 19 大 谷 地 3 号 | (十育 31号) |
| 20 長 葉 裸 | |
| 21 奥 原 大 豆 | |
| 22 檜 山 黒 2 号 | (檜育 2号) (限) |
| 23 静 内 大 豆 | (十育 59号) (限) |
| 24 黒 莢 | (本第4956号) |

IX 小 豆

- | | |
|---------------|-------------|
| 1 早 生 大 納 言 | (本第98号) (限) |
| 2 茶 殻 早 生 | (本第2336号) |
| 3 高 橋 早 生 | (本育 35号) |
| 4 早 生 大 粒 1 号 | (十育 5号) |
| 5 円 葉 1 号 | (十育 42号) |

元 優 良 品 種

- | | |
|-----------|----------|
| 1 剣 先 | (本第52号) |
| 2 円 葉 | (本第51号) |
| 3 早 生 大 粒 | (本第229号) |

4 新 大 納 言

5 早 生 円 栗 (本第2337号)

X 菜 豆

1 金 時 (本第2850号)

2 大 福 (本第6599号)

3 中 長 鶏 (本第3284号)

4 大 手 亡 (十支第455号)

5 紅 金 時 (根試第815号)

6 鶴 金 時 (十支第181号)

7 手 無 鶴 金 時

8 常 富 長 鶏 (十支第520号)

9 手 無 中 長 鶏 (十支第4879号)

10 丸 長 鶏 (本第 11840号)

11 虎 豆 (本第 11304号)

元 優 良 品 種

1 美 瑛 金 時

2 手 無 長 鶏 (本第2857号)

3 鶏 (本第2840号)

4 ビ ル マ (本第3286号)

5 菊 地 長 鶏 (十支第4880号)

6 早 生 大 福 (本第11342号)

7 白 丸 鶏 (俱試第541号)

8 白 地 ビ ル マ

XI 豌豆

1 札 幌 黒 目 (本第2874号)

2 日 本 赤 (本第2874号)

3 札幌青手無1号 (本育 175号)

元 優 良 品 種

1 丸 手 無

2 札幌青手無

3 東京赤花 (本第2910号)

XII 馬鈴薯

1 神谷薯1号 (本第2341号)

2 男爵薯

3 マークイン

4 紅丸 (本育 309号)

5 馬鈴薯農林1号 (島系12号)

元優良品種

1 雪片

2 北農第2号

3 北海白

4 咸南白

5 アーリーローズ1号

6 アーリーローズ (本第3016号)

7 アメリカ大白 (本第3024号)

8 ヘブロン (本第3034号)

9 金時薯

10 ベボ一

11 銀夷錦

12 明星 (本育 397号)

13 美深白

14 美深紅

15 馬鈴薯農林2号 (島系3号)

16 馬鈴薯農林3号 (島系86号)

17 ステルケライヘ第1号 (限)

XIII 亜麻

元優良品種

1 ベルギー種

- | | | |
|----|--------|---------------|
| 2 | ベルノー種 | |
| 3 | サギノー種 | |
| 4 | 栗山仲祖麻 | |
| 5 | ベルノー1号 | (本育 36号) |
| 6 | サギノー1号 | (本育 149号) |
| 7 | サギノー2号 | (本育 341号) |
| 8 | 南捷 | (本育 352号) |
| 9 | 南翼 | (本育 419号) (限) |
| 10 | 雲龍 | (本系 43号) |

XIV てん菜

- | | |
|---|---------|
| 1 | 本育 192号 |
| 2 | 本育 400号 |

元優良品種

- | | | |
|----|-----------|-------------------|
| 1 | 本育 48号 | |
| 2 | 本育 190号 | |
| 3 | 本育 398号 | |
| 4 | 本育 399号 | |
| 5 | 本育 48号系1 | |
| 6 | 本育 192号系1 | |
| 7 | 本育 398号系1 | |
| 8 | 本育 399号系1 | |
| 9 | 甜菜北交1号 | (本育 162号×本育 401号) |
| 10 | 甜菜北交2号 | (本育 390号×本育 401号) |
| 11 | 甜菜北交3号 | (本育 404号×本育 191号) |
| 12 | 導入 1号 | |
| 13 | 導入 3号 | |
| 14 | 導入 4号 | |

XV 薄荷

- | | | |
|---|-------|-----|
| 1 | 日高黒薄荷 | (限) |
|---|-------|-----|

元 優 良 品 種

- | | | |
|-----------|---|------------|
| 1 赤 | 田 | (北支第217号) |
| 2 北 見 白 毛 | | (北支第1278号) |
| 3 北 | 進 | (北支第2038号) |

XVI 除 虫 菊

- | | |
|-----------|----------|
| 1 北 海 1 号 | (和 第43号) |
|-----------|----------|

元 優 良 品 種

- | | |
|-----------|----------|
| 1 北 海 2 号 | (和 第32号) |
|-----------|----------|

XVII 菜 種

- | | | |
|------------|---|------------|
| 1 岩 | 内 | (本第11054号) |
| 2 ハンブルブ 1号 | | (本育 357号) |
| 3 樺 | 太 | |

元 優 良 品 種

- | | | |
|-------------|---|----------|
| 1 尻 | 別 | (本第156号) |
| 2 ハ ン ブ ル グ | | (本第149号) |

XVIII みぶよもぎ

- | | |
|-----------|--|
| 1 山 科 2 号 | |
|-----------|--|

元 優 良 品 種

- | | | |
|-----|---|-----------|
| 1 銀 | 葉 | (北系A—14号) |
| 2 石 | 狩 | (F 18号) |

XIX 菜 用 け し

元 優 良 品 種

- | | | |
|-----|---|--|
| 1 鶴 | 坡 | |
|-----|---|--|

XX 紫 蘇

- | | |
|-------------|--|
| 1 縮 緬 青 紫 蘇 | |
|-------------|--|

元 優 良 品 種

- | | | |
|-----|---|--|
| 1 白 | 茎 | |
|-----|---|--|

XXI 大 麻

元 優 良 品 種

1 枋 試 1 号

XXII 苘 麻

元 優 良 品 種

1 公 白 38 号

XXIII 苧 草

元 優 良 品 種

1 京 畿

XXIV スエーデンかぶ

1 ホワイト フレッツシユド ネットクレス (本第1014号)

元 優 良 品 種

1 センダイカブ

2 マゼスチツク (本第3782号)

XXV 飼料用てん菜

1 パーレス ストリーネ (畜第402号)

2 シュガー マンゴールド (本第13400号)

元 優 良 品 種

1 黄 色 中 形 (本第1428号)

XXVI 飼料用かぶ

1 札 幌 紫 (本第3078号)

2 紫 丸 カ ブ (本第5761号)

元 優 良 品 種

1 札 幌 白 (本第3079号)

XXVII 飼料用にんじん

1 札幌太ニンジン (畜第502号)

元 優 良 品 種

1 ベルギー太白 (本第1013号)

XXVIII 牧 草

禾本科牧草

1 チ モ シ ー (本第542号)

- 2 オーチャード グラス (本第543号)
- 3 ケンタツキー プリユーグラス (本第533号)
- 4 ク サ ヨ シ

豆 科 牧 草

(1) 赤 ク ロ バ ー

- 1 在 来 種 (本第551号)
- 2 早生クロバー (畜第37号)
- 3 中生クロバー (畜第38号)
- 4 晩生クロバー (畜第36号)

(2) ル ー サ ン (本第556号)

元 優 良 品 種

- 1 トール オートグラス (本第545号)
- 2 レッド トツブ (本第530号)
- 3 オウンレス ブローム グラス (本第793号)

XXIX 緑 肥 作 物

- 1 コンモンベツチ 1号 (本第5982号)
- 2 緑肥大豆「茶小粒」 (本第2429号)
- 3 緑肥大豆「早生黒千石」 (本支第5399号黒千石)
- 4 無毒黄花ルービン

元 優 良 品 種

- 1 サンドベツチ (畜第595号)
- 2 黄花ルービン

昭和35年3月15日印刷

昭和35年3月25日発行

北海道立農業試験場

札幌市琴似町

印刷所 山藤印刷株式会社

札幌市南2条西6丁目